

九州歴史資料館年報

令和3年度



九州歴史資料館

は じ め に

当館は、昭和48年に福岡県太宰府市に開館し、平成22年に弥生時代の集落遺跡である三沢遺跡に隣接する現在の地（小郡市三沢）に移転し、3年度は移転開館から11年目を迎えました。

当館は、九州全域を視野に入れながら、福岡県固有の各種文化財の調査・研究・活用等を行う博物館機能と、大宰府史跡等の発掘調査・研究及び出土品の管理等を行う埋蔵文化財センター的機能を併せ持っています。さらに、令和3年3月に策定された「福岡県文化財保護大綱」では、県内地域の文化財保護の充実のため、文化財保護課と一体となって、市町村の文化財保護の取り組みへの助言や支援の役割強化を担うことが求められております。

この年報は、当館がこれらの機能を認識して3年度に実施した各種事業の概要を報告するものです。

3年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響により、5月から9月にかけて二度、合計で2か月半休館いたしました。その後も、感染再拡大が危惧される時期には事業の中止・延期を余儀なくされつつも、可能な限り三密を避ける工夫を行いながら、各種イベント・研修の実施に努めてまいりました。大綱で役割が強化された市町村への支援につきましても、市町村職員向けの専門研修を計画的に行うこととし、3年度も専門研修の一部を実施することができました。

また、コロナ禍の新たな取り組みとして、学校教育向けには「オンライン授業」を提案し、一般向けにはSNSを活用した情報発信を行うなど、来館されなくても当館を利用していただける環境の構築も進めてまいりました。

今後も当館に求められる役割を全うすべく、職員一丸となって、魅力ある事業を展開してまいります。引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和4年8月

九州歴史資料館長

城 戸 秀 明

目 次

1 事業概要

(1) 調査・研究	4
(2) 展 示	21
(3) 資料利用	31
(4) 学習支援・博学連携	44
(5) ボランティア	53
(6) 普及・活用事業	57
(7) 重点施策	69
(8) 広報活動	69
(9) 実習・研修	74
(10) 市町村支援	77
(11) 刊行物一覧	81
(12) 交流事業	81
(13) 協議会等	82

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿 革	83
(2) 施設概要	85
(3) 予 算	85
(4) 組織・職員	86
(5) 関連法規	87

3 諸 統 計

(1) 入館者状況	93
(2) 収蔵資料・図書	93

4 日 誌 抄	94
---------------	----

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などの、いわゆる仏教美術と、福岡藩お抱え絵師尾形家を要とする、近世絵画を主として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。3年度は、新型コロナウイルスの影響により、調査を行うことが困難であったが、特別展にかかるものを主としながら、以下の通りの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究を進めている。その他にも地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査などを、臨機に組み込みながら調査研究活動を行っている。

3年度、主として行った調査は、特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」に関連するものである。昭和48年(1973)の開館以来の仏教美術調査、中でも山岳霊場における調査の成果と、当館に事務局を置く九州山岳霊場遺跡研究会の成果を紹介する同展においては、福岡県、佐賀県、長崎県の霊山に所在する、仏像や神像などの尊像を中心とする文化財を一堂に会して展示した。尊像については、多くが重要文化財や県、市町村の指定となっている著名な像であるものの、とくに写真については、像の正面のみしかないもの、早くに調査がなされたことから白黒写真のみのものなどが少なくなかったため、そのような作例については、展覧会準備に際して、あるいは会期中休館日にあらためて撮影を行い、ほとんど全ての作例について、高精細の画像と調書等の基礎資料をととのえることができた。特別展や出品作品の詳細については、後掲の展示にかかる章の特別展の節、または特別展図録を御参照いただきたい。なお、出品作の中で、長崎県諫早市天祐寺に所蔵される、もと諫早四面宮の神体であった、宝永2年(1705)張瀬刑部作の四面菩薩坐像については、雲仙岳の神である四面菩薩の、いま知られる唯一の存在として貴重だとして2年度の年報でも紹介したが、同じく天祐寺から出品いただいた、鎌倉時代初期の如意輪観音坐像の美作が、その像容や性格の形成に重要な役割を果たした可能性が浮上し、2軀の重要作例の調書の公開かたがた、『九



如意輪観音坐像（諫早市・天祐寺所蔵）

州歴史資料館研究論集』47にて紹介しているので、詳しくはそちらを参照いただきたい。

ちなみに諫早市については、依頼を受けて協働しつつ、市内の寺社において尊像を中心とする文化財の確認調査も進めている。天祐寺ほどの充実を見せる場こそなかなか希有ではあれ、これまで知られるところが多かった重要作例が少なからず出現しており、今後精査を進めることで、九州の仏像や神像の世界に多くの新しい知見をもたらすことができると期待される。

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも調査が進んでいなかったところを前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国渡来石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国渡来石造物までを対象としている。3年度については、新型コロナウイルスの感染が収束していなかったため、調査は低調とならざるを得なかったものの、特別展にも出品された、福岡県糟屋郡の首羅山遺跡から新たに見出された薩摩塔の断片について、久山町教育委員会と共に実見し意見交換して位置づけを試み、また、これまで九州西側でのみ確認されていた薩摩塔が、ついに大阪府堺市にて見出されたことを受け、当該作例について、堺市博物館が発表するに先立ち共に実見し意見交換を行う機会を得るなど、今後の研究の重要な転機に立ち会うことができたのは意義深いことであった。

○福岡県内の絵画調査と研究

2年度までに引き続き、福岡藩の御抱え絵師、尾形家について、狩野探幽に絵を学んだ尾形家初代～第三代に焦点を当て、作品と画稿についての調査研究を進めている。公的機関所蔵作品の調査のほか、画稿（尾形家絵画資料）については、所蔵先である福岡県立美術館の協力を得て、初代仲由、第二代守義の制作した331点の調査と写真撮影に2年度から取り組んでおり、3年度末までに221点分を完了した。画稿のうち、第二代守義筆とみられる小方仁兵衛筆「三十六歌仙図画稿」について、その概要と、宗像大社所蔵の尾形家第六代守厚筆《三十六歌仙図扁額》制作の際引用された可能性があることを、『九州歴史資料館研究論集』47に紹介した。4年度以降は、寺社などの所蔵作品を中心に調査を行い、企画展にて成果を公表する予定である。

さらに、県内各所の絵画について、市町村の依頼等を受けて調査を行っている。3年度は、主に、『新修宗像市史』にかかるものとして、宗像市の寺社に伝わる絵画や絵馬の調査を行った。また、太宰府市教育委員会が行っている太宰府絵師調査にも、絵画担当職員が調査員のひとりとして参加している。2年度までに続き、全国に名の知られた文人である吉岡拝山を核とする吉岡家の絵画資料調査や作品調査に参加した。



小方守義筆「唐獅子図」画稿
(尾形家絵画資料、福岡県立美術館所蔵)

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するということを、理想の形として心がけている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替えに伴う一時保管を行うこともある。2年度については、長らく保管していた柳川市の東光寺旧蔵の鎌倉時代の阿弥陀如来坐像の、地元での保管先が確保できたため、これを返還している。また、博多で長らく親しまれてきた宝照院が、前身となる寺院が存在していた宝満山へと移転することとなり、貴重な文化財である尊像の数々について一時的に受け入れを行っている。

◎考古基準資料調査

○古代玄界灘における漁労活動の調査研究

本研究は、玄界灘沿岸地域における弥生・古墳時代の遺跡出土漁具から、弥生・古墳時代の漁具・漁法を復元し、漁労活動や海人集団、生産活動等について検討を加える計画である。

当初平成30年度から3年計画で研究を進めていたが、元・2年度とコロナ禍により他機関所蔵の資料調査がほとんど実施できなかったことから、3年度まで1年間研究期間を延長した。しかし、3年度も状況はあまり好転せず、当初計画通りに行えていない状況である。そのため、4年度までさらに1年間調査を延長する予定である。4年度は、資料調査が可能であった当館所蔵の福岡市西新町遺跡で特徴的に出土する石錘について、使用痕跡などの考古学的な検討や民俗例等から、タイを捕獲するための漁具・漁法である可能性を明らかにした。また西新町遺跡の集団が捕獲したタイを加工し、特産物として流通させるとともに、列島内外各地との交易を担い、同時に様々な財も流通させたという、交易ネットワークの結節点として機能した等の検討を行った。その成果は『九州歴史資料館研究論集』47で公表した。

○福岡県内における軍事に関する遺構の基礎的研究～飛行場を中心に～

本研究は、北部九州地域における昭和期の飛行場及び関連施設（主として「航空機用掩体」）を研究の主となる素材として取り上げ、文献及び現地踏査により資料を収集し、現存状況等を把握した上で基礎的な考察を行うものである。3年度は研究の2年目となるが、2年度に引続き新型コロナウイルス感染症の拡大による移動制限等により、現地調査は予定の一部に留まった。4年度は現地調査に加え、文献資料の収集及び整理を実施し、研究の大枠をまとめる予定である。



中攻用掩体（赤江飛行場）

○福岡県内近世陶磁器研究

福智町所蔵の上野焼コレクションの調査を計画したが、新型コロナウイルス感染症による対策のため中止を余儀なくされた。

○中世北部九州出土の喫茶関係遺物の研究

上記のコレクション調査などが進まなかったが、館内等に収蔵している中世の遺跡から出土した喫茶関係遺物についての研究を行った。一般的な喫茶の歴史では、古代の団茶、中世の抹茶、近世

の煎茶といわれてきた。しかし、発掘事例の増加や寺院に伝わる古文書の研究が進み、近年、喫茶の実相は地域によって様々であることが分かってきた。中世北部九州特に福岡の遺跡で喫茶の実相を考えるうえで重要な遺跡について、遺構や出土遺物から喫茶の様相をとらえるものである。筑前町砥上上林遺跡、五ヶ山小河内遺跡、五ヶ山網取遺跡の出土品の調査を行い、『九州歴史資料館研究論集』47などで発表した。



砥上上林遺跡の埋納遺構一括遺物の中の天目

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

3年度は、大宰府跡出土木簡が重要文化財に指定されたことを記念する特集展示の開催にあたり、再度これまでの木簡に関する展示の内容や大宰府史跡出土木簡全体の調査成果を通覧して、どのような内容を展示するのが相応しいかを検討した。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、平成22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。2年度に、県史編纂史料に含まれる永江純一文書のうち、未受領であった資料を調査し、当館に搬入した。これについて3年度に清掃と燻蒸を行い、特別収蔵庫に収納した。

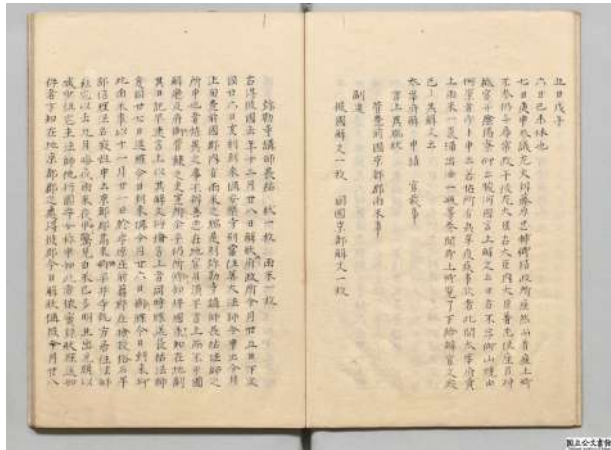
また、県史編纂の際に調査されていた、うきは市の野上文書1,450件（2,058点）および若干の未整理資料について、御所蔵者から寄贈の申し出があり、状態を確認の上、受領し、当館に搬入した。野上家は、現在のうきは市浮羽町新川に所在し、近世から近代にかけて、山林や田畑を所有し、林業で活躍した名望家である。

さらに、令和3年が廃藩置県による福岡県誕生から150周年を迎えるのに備え、永江純一文書等に含まれる県政関連資料等についても、2年度に引き続いて調査を行った。その成果は3年度企画展「福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～」で展示している。

○県内所在資料の調査研究

福岡県の東部、旧豊前国に関わる古代史料の調査を行った。奈良国立博物館所蔵の「重要文化財 豊前国仲津郡丁里大宝二年戸籍断簡 飛鳥時代・大宝2年（702）」は、正倉院旧蔵の戸籍断簡で、大宝律令施行直後に作成された極めて貴重な史料である。渡来人の子孫とみられる人名が多く記載されており、古代の豊前国の特徴を良く示している。さらに、石清水八幡宮所蔵の「重要文化財 弥勒寺喜多院所領注進 鎌倉時代・12世紀」は、全国の神々に先駆けて神仏習合をはたした宇佐八幡宮の神宮寺である弥勒寺の所領を書き上げた古文書で、豊前国にも多くの荘園を弥勒寺が保有していたことを示し、八幡信仰の広がりを明らかにするための重要な史料である。

国立公文書館所蔵の『本朝世紀』は、和学講談所旧蔵の近世の写本で、長保元年（999）3月に豊前国京都郡内で米が降るといふ祥瑞が中央政府に報告されたこと、宇佐八幡宮弥勒寺講師長裕法師、宇原荘や葛野荘という宇佐八幡宮弥勒寺の荘園、またこの事件に関係する早部信理（法名寂性）や不知山長松といった地域の豪族もみえる。平安時代中期の京都郡をめぐる宇佐八幡宮や豪族層の動向を伝える好史料である。以上の成果は、4年度特別展「京都平野と豊国の古代」で紹介する予定である。



また、福岡共同公文書館が所蔵する戦前・戦中の県政に関する公文書も、2年度に引き続いて調査した。さらに大牟田市立三池カルタ・歴史資料館、柳川古文書館、みやこ町歴史民俗博物館、福岡市博物館でも、戦前戦中の福岡県に関する文書資料等の調査を行った。その成果は3年度企画展「福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～」で展示している。

本朝世紀 六 江戸時代・18～19世紀
和学講談所旧蔵 国立公文書館所蔵

このほか、公立学校共済組合から依頼のあった講演会のための調査として、福岡共同公文書館が所蔵する山陽新幹線・九州新幹線に関する公文書も調査し、その成果は令和4年3月19日（土）に福岡リーセントホテルで行った講演会で発表した。

他館との連携研究としては、大野城市立の大野城心のふるさと館と国宝「翰苑卷第卅」（太宰府天満宮所蔵）について検討を行い、その成果は大野城心のふるさと館開館3周年記念特別展図録『国宝 翰苑』（令和3年11月）に特論「歴史書と類書」「太宰府天満宮と『翰苑』」として収載している。

〔文化財企画推進室保存管理班〕（４年度より学芸調査室文化財科学班に改編）

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースによる含浸処置、含浸処置後の余分なトレハロースを除去する表面処理といった工程で行っている。３年度は、２遺跡40点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。３年度は13遺跡411点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

３年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市、九州大学附属図書館付設記録資料館、柳川古文書館および当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第１展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、平成22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。３年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館であり、展示室、収蔵庫内に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。また、装飾古墳石室内環境に関する支援を３年度から開始し、王塚古墳（桂川町）、五郎山古墳（筑紫野市）、屋形古墳群（うきは市）の保存環境整備に対応した。調査、支援により、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案に寄与している。

○各種文化財の科学的調査

３年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土元寇沈没船部材	X線CTスキャナ	4.20
2	大野城市教育委員会	上園遺跡出土銅鐸舌	X線CTスキャナ	5.13
3	大分県立歴史博物館	福勝寺古墳出土棗玉	X線CTスキャナ	6.16
4	熊本県菊池市中央図書館	石淵家蔵地球儀	X線CTスキャナ	7.29
5	大野城市教育委員会	上園遺跡出土銅鐸舌	蛍光X線分析	8.6

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
6	筑前町教育委員会	軍用機機銃	X線CTスキャナ	8.23
7	春日市教育委員会	須玖岡本遺跡出土鉄器	デジタルマイクロ スコープ	9.8
8	小郡市教育委員会	上岩田遺跡出土鉄器	X線CTスキャナ	9.16
9	小郡市教育委員会	上岩田遺跡出土鉄器	X線CTスキャナ	9.30
10	飯塚市教育委員会	飯塚市内遺跡出土遺物	X線CTスキャナ	11.24
11	筑前町教育委員会	山隈古墳（1号墳）出土鉄製品	X線CTスキャナ	12.7
12	朝倉市教育委員会	上池田遺跡出土鉄器	X線CTスキャナ	12.8
13	朝倉市教育委員会	上池田遺跡出土鉄器	X線CTスキャナ	1.19

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

（一社）文化財保存修復学会理事会に理事として出席した。また、博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

平成24年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

3年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、小札甲、冑など合計520点、行った。



処理前の小札甲



クリーニングを終えた小札甲

◎災害による被災文化財救援への対応

平成29年7月九州北部豪雨災害、令和2年7月豪雨により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

3年度は、個人蔵文書群（朝倉市）、個人蔵書籍（大牟田市）、個人蔵文書群（熊本県）の作業を行った。



飽和水蒸気法による固着文書の処置



固着文書の展開作業

[埋蔵文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体の開発事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。また、県内市町村の実施する発掘調査の支援も適宜行っている。加えて、2年度より4か年（当初3か年の予定を新型コロナウイルス感染症の影響により1年延長）をかけ、基礎的な調査として「福岡県近世窯業関係遺跡調査」を行っている。また、県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」については改めて内容を検討し、3年度は全7回の講座として企画した。

◎発掘調査及び報告書作成

3年度の発掘調査は、国道バイパス建設および県道改良事業に伴う発掘調査を実施した。報告書は河川改修に関わる事業に先立ち、九州歴史資料館で実施した発掘調査及び元年度から2か年をかけて実施した県指定史跡三沢遺跡の確認調査の成果を報告書として刊行した。

発掘調査は、受託事業として国道210号線浮羽バイパス建設事業1件（国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所）を実施、執行委任事業として主要地方道久留米筑紫野線改良事業・一般県道湯辺田八女線改良事業・国道322号線改良事業（福岡県県土整備部）、計4件を実施した。

整理・報告書作成は、受託事業として元・2年度にかけて実施した山国川河川改修事業関係（国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所・下唐原東屋敷遺跡）1冊、及び国庫補助事業として実施した県指定史跡三沢遺跡の確認調査報告書1冊の計2冊を刊行した。これら報告書は印刷物として刊行した後、電子媒体として館のHP等に掲載する予定である。

以下、3年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、現在整理中のものも含まれており、詳細については刊行済みもしくは刊行予定の本報告書に拠られたい。

○国道210号線浮羽バイパス建設事業

- ・関戸遺跡・新開遺跡（久留米市田主丸町豊城）

本遺跡は筑後川と巨瀬川の間位置し、これら河川の堆積作用によって形成された自然堤防上に立地している。3年度調査地点は、平成12年度から15年度にかけて福岡県教育委員会が調査した日詰遺跡の西側にあたる。弥生時代から古代にかけての集落遺跡で、関戸遺跡では竪穴住居跡85軒、掘立柱建物跡3棟以上、土坑や溝が検出され、新開遺跡では竪穴住居跡7軒、溝等を検出した。

本調査により、浮羽バイパス建設事業に係る調査によって解明が進んだ浮羽地域における弥生時代から古代にかけての集落の変遷を補強する成果が得られた。これらの知見を基に4年度以後、報告書を刊行予定である。



関戸遺跡 全景



竪穴住居跡カマド

○主要地方道久留米筑紫野線改良事業

・十郎丸長谷古遺跡（久留米市北野町十郎丸）

本遺跡は久留米市北野町十郎丸に所在し、筑後川の支流である大刀洗川右岸にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地「古町遺跡」の北西側に位置する。調査の結果、弥生時代の竪穴状遺構2基、甕棺墓1基、奈良時代の竪穴住居跡12棟、江戸時代の溝18条などを検出した。

弥生時代の竪穴状遺構は平面長方形を呈しており、埋土からは多数の弥生土器と石包丁1点などが出土した。また、甕棺墓は既に削平されており下甕のみが現存していたが、内面には朱が塗布されていた。奈良時代の竪穴住居跡12棟のうち4棟からカマドが検出された。また、最も残りの良い6号住居からは完形の須恵器杯蓋や土師器の杯、石製紡錘車と多量の炭化物が出土した。江戸時代の溝については用途が明確ではない。

なお、本調査は3年度に継続し、4年度に報告書を刊行する予定である。



十郎丸遺跡 全景



掘立柱建物跡

○一般県道湯辺田八女線改良事業

・湯辺田・下柿瀬遺跡（八女市黒木町湯辺田）

本遺跡は一級河川矢部川の上流に位置し、流れによって開析された谷の小規模な平地上に立地する。調査の結果、古墳時代から奈良時代にかけて利用されたと考えられる流路を検出したが、近現代の生活にかかる遺構が多くを占めている事を確認した。

○国道322号改良事業

・本郷流川遺跡（三井郡大刀洗町大字本郷）

本遺跡は筑後平野北東部の沖積地上の平坦地に位置し、平成12年に発掘調査を実施した本郷流川遺跡2区から現道を挟んで連続する位置にあたる。

調査の結果、古墳時代後期の竪穴状遺構1基と多量の土器が出土した。遺構の密度は希薄であったが出土遺物は完形品を含み状態が良いものが多く認められることから、今回の調査地点は集落の縁辺部であると推定される。

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
関戸遺跡・新開遺跡	久留米市田主丸町豊城	4,000	2021.6.17～ 2022.3.25	集落	バイパス 建設
十郎丸長谷古遺跡	久留米市北野町十郎丸	800	2021.5.24～	集落	道路改良
湯辺田・下柿瀬遺跡	八女市黒木町湯辺田	1,300	2021.6.16～	散布地	道路改良
本郷流川遺跡	三井郡大刀洗町大字本郷	1,000	2021.11.4～ 2022.1.28	集落	道路改良

作成報告書

タイトル	シリーズ名	調査原因
下唐原東屋敷遺跡	一級河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告 7	河川改修
県指定史跡三沢遺跡	福岡県文化財調査報告書第279集	重要遺跡確認

◎福岡県近世窯業関係遺跡調査

福岡県内では、高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では、小石原焼が重要無形文化財に指定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

福岡県では、県内に所在する近世以降の窯業関係の生産遺跡を対象に総合的な緊急分布調査を進めているが、2か年目となる3年度は昨年続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により現地踏査を進めることができず、当初の予定を1年繰り下げ、5年度まで調査を継続することとなった。有識者3名からなる「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会」も当初2回開催の予定を1回のみとし、12月3日（金）、東峰村にて実施した。4年度は重点調査の充実を図り、2回の調査指導委員会を開催して、5年度に報告書としてとりまとめる予定である。



調査指導委員会（東峰村）

福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会委員名簿（令和3年3月31日現在）

	氏 名	所属等	専 門
委員長	大橋 康二	佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問	陶磁史
委 員	辻田 淳一郎	九州大学大学院人文科学研究院准教授	日本考古学
	宮地 英敏	九州大学附属図書館記録資料館准教授	日本経済史

【埋蔵文化財調査室調査研究班】（4年度より大宰府調査班に改称）

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。3年度は大宰府史跡の調査研究計画に基づく発掘調査を3件、開発に伴う事前確認調査を1件実施した。また、大宰府外郭線の調査研究計画に基づく測量調査1件、発掘調査を3件実施した。

◎大宰府史跡の発掘調査および報告書作成

3年度は、大宰府史跡発掘調査第10次5ヵ年計画の5年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を実施した。蔵司地区の発掘調査は3年度末をもって完了し、4年度には調査成果の総括報告書を刊行する予定である。

また、大宰府政庁周辺官衙跡で、開発に伴う事前確認調査を実施した。

詳細は下記のとおりである。

3年度大宰府史跡調査一覧

調査回数	面積（㎡）	調査期間	調査地区
大宰府史跡第245次調査	150	2021.5.12 ～ 2022.3.28	政庁周辺官衙跡・蔵司地区
大宰府史跡第246次調査	129	2021.5.12 ～ 2022.3.28	政庁周辺官衙跡・蔵司地区
大宰府史跡第250次調査	145	2021.5.12 ～	政庁周辺官衙跡・蔵司地区
大宰府史跡第251次調査	3.2	2021.9.24	政庁周辺官衙跡・五反田地区

○大宰府史跡第245次調査（政庁周辺官衙跡・蔵司地区）

九州歴史資料館では、蔵司地区官衙の構造解明に向けた調査を平成21年度から実施している。

21～25年度は遺構の分布や現況の地形の成因などを探るための確認調査を実施、26年度以降は確認調査成果に基づく重点調査を実施した。

第245次調査地は、蔵司丘陵南東部の広い平坦面を対象として、元年度に調査を開始した。

当初は礎石建物の有無を確認することが目的だったが、第1トレンチ北側にて掘立柱建物と思われる柱列を確認したため、その周囲を拡張して柱穴列の性格を確認することとなった。

その結果、柱穴列は東西7間×南北2間の側柱建物を構成することを確認した。建物の規模は14.7m×4.7mで、柱間は2.1m～2.4mを測る。

今回の調査によって、この場所には礎石建物ではなく掘立柱建物が建てられており、礎石建物と併存していた可能性があることが分かった。

なお、第245次調査地は遺構表面を真砂土で保護したのちに埋戻し工事を行い、3年度末までに発掘調査を完了した。



第245次調査で検出した掘立柱建物

○大宰府史跡第246次調査（政庁周辺官衙跡・蔵司地区）

第246次調査は、蔵司丘陵に進入するための経路の確認を目的として、蔵司丘陵南部の細長い平坦面を対象に元年度から調査を実施した。

第246次調査区は第1・第2の二つのトレンチに分かれており、このうち3年度は第2トレンチについて、2年度に引き続き調査を実施した。

これまでの調査では、礎石建物SB4690や大量の瓦の集積、南北方向に伸びる溝などを確認していたため、3年度はその詳細な性格について把握する目的で調査を実施した。

調査の結果、この場所は8世紀後半以前の段階で平坦面を造成し、9世紀前半～中頃に建物の基壇を築いて礎石建物SB4690を築造したことを確認した。基壇上面には雨受け瓦列が設置され、基壇周辺には排水溝が設置されたこと、また、基壇造成中に鉄製小札1点を埋置して祭祀を行った可能性があること等も併せて確認した。さらに、9世紀後半～11世紀の時期に、丘陵上部に由来する瓦を片付けるために、礎石建物SB4690の北側に瓦を敷きつめるようにして整地を行ったこと、また、この時期には礎石建物SB4690の西側に土塀を設置した可能性があること等を確認することができた。

なお、第246次調査区は調査終了後に埋め戻し工事を行い、発掘調査を完了した。



大宰府史跡第246次調査

○大宰府史跡第250次調査（政庁周辺官衙跡・蔵司地区）

丘陵部へと進入する経路、及び門等の関連施設の確認を目的として、現進入路の終点であり平坦面南端の中央に位置する当該地に対して第1トレンチを設定した。また、平坦面北側の斜面付近にて、整地の状況や遺構の有無を確認する目的で第2トレンチを設定し、発掘調査を実施した。

第1トレンチでは複数時期の遺構面を確認した。そのうち、8世紀前半～中頃に属する第Ⅱ期遺構面の上面で検出した礎石状の石材は、精査の結果、礎石ではなく設置後に埋めた状況であることを確認した。また、この第Ⅱ期遺構面上面では築地状の積土を確認した。

第Ⅲ期遺構面では8世紀後半～11世紀の遺構を確認した。この面では第236次調査区で検出された礎石建物SB5120の雨落ち溝に続く南北溝を検出したが、この遺構は大宰府条坊推定右郭二坊路の設計線に沿う溝前面官衙域の溝SD320と軸を揃えているため、条坊の設計線が蔵司地区丘陵部にまで到達している可能性があることを知ることができた。

第2トレンチでは近世の丘陵横断水路SD4670を確認したが、古代の整地層や遺構は確認できなかった。

なお、第250次調査区は調査終了後に埋め戻し工事を行い、発掘調査を完了した。



大宰府史跡第250次調査

○大宰府史跡第251次調査（政庁周辺官衙跡・五反田地区）

特別史跡「大宰府跡」の南側一帯には古代大宰府に関連する遺構が広がっていることが過去の調査によって知られており、「大宰府政庁周辺官衙」と呼称されている。当調査地は、その中の「五反田地区」と呼ばれる地区の一部である。

当調査は、住宅建て替えの計画が出されたことを受け、遺構の有無や地表面から遺構面までの深さ、工事による遺構への影響を図る基礎資料を得る目的で実施した。トレンチの掘削は重機を使用し、写真撮影や図面作成を行ったのち速やかに埋め戻し、調査を完了した。



大宰府史跡第251次調査

調査に際しては、旧地形を考慮して調査区南東隅から西に向けてトレンチ掘削を行った。表土・床土の下層には厚い客土層があり、現地表面から1.4mほど下層で旧表土層を確認した。旧表土・旧床土層の下層には粗砂や混礫粗砂が厚く堆積することを確認した。これらの層には古代の遺物が少量含まれていたが、遺構は確認されなかった。

これらのことから、当該地は河川の氾濫によって形成された堆積地であることを確認した。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上、あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置し、その指導のもと、計画的に調査研究を進めている。

3年度の大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和3年10月27日（水）・28日（木）の両日に開催した。

27日は、委員長・副委員長の選出後、2・3年

度実施した発掘調査の成果と、大野城跡増長天地区整備事業、大宰府外郭線の調査成果や大宰府史跡指定100年記念事業について報告した。28日は、大宰府史跡の計画調査と今後の大宰府史跡について審議が行われた。

28日午後に審議事項の記者発表を行い、30日（土）に現地説明会を開催し、約80名の参加者があった。



蔵司地区現地説明会

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

（令和3年度）

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
副委員長	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委 員	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	増渕 徹	京都橘大学教授	歴史学
	本中 眞	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	造園学

	氏 名	所 属	専 門
委 員	亀田 修一	岡山理科大学大学院教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	伊東 龍一	熊本大学大学院教授	建築史学
	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学工学部教授	土木工学

◎大宰府外郭線の調査・大宰府外郭線部会

筑紫野市前畑遺跡第13次調査で確認された「土塁状遺構」については、大宰府都城の外郭線を構成する古代の遺構の可能性が指摘された。そのため、九州歴史資料館では関連市町と連携し、大宰府外郭線を構成する遺構の有無や範囲を確認して大宰府の構造を理解するための調査研究を行い、今後の保存活用の基礎資料とすることとなった。

【関連市町】

筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市・宇美町・小郡市・佐賀県基山町

【3年度】

- ・大宰府外郭線検討会（関連市町との連携による調査研究）を年3回開催した。
- ・大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会を、令和3年11月22日（月）と令和4年3月14日（月）の2回開催した。

第1回部会では、大宰府外郭線第1次補足調査（太宰府市）、第3次補足調査（小郡市）、宝満山遺跡群第46次調査（太宰府市）について現地視察を行い、審議が行われた。

第2回部会はオンラインによる開催とした。3年度調査内容で大宰府外郭線第1～4次調査の成果と、成果の総括に向けた作業について報告し、審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会委員名簿

（3年度）

	氏 名	所 属	専 門
部 会 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副部会長	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
委 員	亀田 修一	岡山理科大学大学院教授	考古学
	岩永 省三	元九州大学総合研究博物館副館長	考古学
	末次 大輔	宮崎大学工学部教授	土木工学

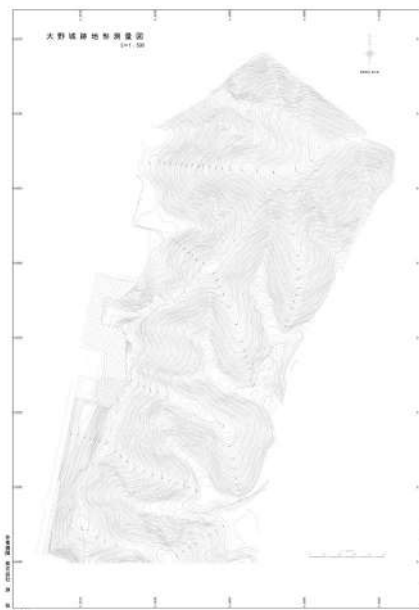
3年度大宰府外郭線調査一覧

調査次数	面積（㎡）	調査期間	調査地区
大宰府外郭線測量調査	約5,000	2021.3.16～2022.3.30	大宰府外郭線北側推定線
大宰府外郭線第1次補足調査	18.0	2021.9.21～2022.2.2	大宰府外郭線北側推定線
大宰府外郭線第3次補足調査	21.0	2021.7.19～2022.3.30	大宰府外郭線東側推定線
大宰府外郭線第4次調査	21.5	2021.9.21～2022.3.17	大宰府外郭線北側推定線

○大宰府外郭線測量調査（太宰府市国分・水城）

大宰府外郭線の踏査の結果、遺構が存在する可能性が高いとされた、水城跡東側丘陵に連続し、南北方向に長く伸びる丘陵地形について、土塁状遺構の有無や周辺地形との関係を把握するために測量調査を実施した。

測量調査を実施した箇所は、2年度に測量調査を実施し、3年度に第4次調査として発掘調査を実施した範囲の北東側に続く尾根線である。この場所では狭い尾根線や土橋状の地形の連続が確認されているため、ドローンによるレーザー計測を業者に委託し、そのデータをもとに1/500、1/2,000地形図を作成した。



3年度測量成果図

○大宰府外郭線第1次補足調査（太宰府市国分）

大宰府外郭線第1次調査は水城東門の東側丘陵部を対象とした発掘調査である。元年度に第1次調査を実施した結果、第3トレンチで人為の可能性のある段差や盛土の可能性のある層が確認されたため、3年度に同地点を再確認し、さらにトレンチの拡張を行うこととなった。

調査の結果、段差は直線的に延長せず局所的な現象である可能性が高いこと、盛土の可能性のある層は局部的な凹地を埋めた自然堆積層の可能性が高いことを確認した。従って、当該地に関しては人為的による整形や盛土の可能性は低いという所見を得るに至った。

○大宰府外郭線第3次補足調査（小郡市三沢）

大宰府外郭線第3次調査は、踏査によって遺構の存在が想定された小郡市三沢地内の三か所を対象に、2年度に実施した発掘調査である。2年度の調査により、桜町堤付近の第5・第6トレンチにおいて人為の可能性のある土層等を確認したため、3年度に補足調査を実施した。

桜町堤西側堤体部分に設定した第5トレンチのうち、西側斜面で観察された薄い層状の堆積については、人為による盛土の可能性は低いという調査所見が得られた。また、東側斜面で検出した盛土は後世の造成によるものであり、その下層は自然堆積の可能性が高いことが分かった。

第5トレンチの北側約200mの流路側面に設定した第6トレンチでは、人為による積土を確認することができたが、積土が行われた時期は不明である。



大宰府外郭線第1次補足調査



大宰府外郭線第3次補足調査

○大宰府外郭線第4次調査（太宰府市国分）

大宰府外郭線第4次調査は、水城東門の東側丘陵に続く南北方向に伸びる丘陵部を対象とした発掘調査である。第1トレンチは丘陵の西側斜面から狭小な平坦面にかけて調査区を設定し、第2トレンチは丘陵頂部付近の断面露頭部を対象とした。

第1トレンチでは平坦面の造成と、これに伴って掘削された可能性のある溝状遺構を確認した。出土遺物等はなく、平坦面形成の時期は不明である。

第2トレンチでは人為的な痕跡は確認できなかった。



大宰府外郭線第4次調査

◎古代歴史文化協議会

古代歴史文化にゆかりの深い全国14県が連携し、平成26年に「古代歴史文化協議会」が設立された。協議会では平成26年度から30年度までの第1期共同調査研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、各県連携して調査研究や成果の普及活用を行ってきた。元年度から4年度までの第2期共同調査研究テーマは「弥生・古墳時代の刀剣類」とし、調査研究を行っている。

【古代歴史文化協議会加盟県】

埼玉県・石川県・福井県・三重県・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・福岡県・佐賀県・宮崎県（14県）

○3年度事業内容

- ・担当者Web会議を年4回開催
- ・第13回研究集会 7月6日（火）～8日（木）に島根県出雲市で開催
- ・第14回研究集会 1月18日（火）・19日（水）に佐賀県佐賀市で開催

（２）展 示

◎常設展示

第１展示室では、「歴史（とき）の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得、資料の調査研究の活性化を意図して約２か月ごとに展示替えを行っており、その都度、足を運んでももらえれば新しい資料との出会いがあるようにしている。

第２展示室では、大宰府政庁中門の10分の１復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第３展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・軒瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁や国産陶器などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第４展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓、平安時代の鋳造遺構など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。

第１展示室においては、平成24年度から調査研究および展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示の内容をより深化もしくは特化した内容の特集展示を開催している。３年度には、大宰府跡出土木簡の重要文化財指定を記念した特集展示「木簡からみた古代の大宰府」を開催した。当初、２年度に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となっていた展示である。特集展示の会期中には、展示への理解をより深めてもらうため、木簡の出土地を探訪する文化財めぐりも実施し、好評であった。

３年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、令和３年５月11日から６月20日までと、８月６日から９月13日までの期間が臨時閉館となった。

当館では、展示内容や歴史的な背景をより深く理解してもらうため、プレミアムフライデーにあわせて「夕べのギャラリートーク」を開催している。３年度は常設展示と特別展・企画展・特集展示あわせて８回を予定していたが、そのうち２回が新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となった。また、『教育福岡』の連載記事「九州歴史資料館展示品名選」やYouTubeなどを通じて、展示の紹介を行っている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第１章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第２章 弥生時代 稲作とクニ
- 第３章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第４章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第５章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第６章 近世 「太平の世」の福岡
- 第７章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界



第１・３展示室

◎特集展示

○特集展示 重要文化財指定記念「木簡からみた古代の大宰府」

会期：令和3年12月18日（土）～令和4年2月13日（日）

会場：第1展示室（一部）

内容：大宰府史跡では昭和45年（1970）3月に初めて第1号木簡が発見されて以来、今日までに1200点あまりの木簡が出土している。このうち113点が令和元年7月23日に「大宰府跡出土木簡」として、国の重要文化財（古文書）に指定された。

この木簡群の調査研究と保存にあたってきた九州歴史資料館は、重要文化財指定を記念した特集展示を開催した。

指定にあたっては、「古代の大宰府は、西海道を統轄する重要な役所であり、本木簡群は大宰府の日常の政務の実態を解明する上で極めて有用である。さらに、我が国の古代史研究全般においても、たいへん貴重な史料である」との評価がなされ、大宰府史跡出土木簡が、古代の大宰府を解明する上で貴重な史料であることが重視されている。

大宰府史跡出土木簡については、これまでに平成14年度（2002）テーマ展示「大宰府の文字と役人たち」、平成15年度テーマ展示「観世音寺木簡と文化財科学」、平成20年度考古基準資料展示「大宰府史跡出土の木簡と文字瓦」、平成28年度企画展「大宰府の役人と文房具」を開催してきた。

従来の展示では、とくに出土文字資料としての木簡そのものとこれを生み出した古代の役人や大宰府の組織・九州支配のあり方、木簡に関わる保存科学の研究成果に力点を置いて展示してきた。

本展においては、重要文化財指定の理由をふまえ、木簡を出土した大宰府政庁跡や周辺官衙跡の遺跡や遺構との関わりを重視し、木簡の調査研究が古代の大宰府の何を明らかにしたのかを紹介した。この展示によって、大宰府史跡出土木簡の資料としての重要さと、重要文化財指定にいたった意義を広く理解いただける機会となった。



重要文化財 大宰府跡出土木簡（当館所蔵）



特集展示「木簡からみた古代の大宰府」展示風景

◎特別展示「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」

会期：令和3年10月9日（土）～12月5日（日）

会場：第1展示室

主催：九州歴史資料館

内容：古来、人は山を神が住まう場だと認識してきた。やがて仏教が渡来して山は修行の場ともなり、神仏が共生する聖地となって長い年月を重ねた。明治初めの神仏分離や修験廃止は、山のあり方に大きな影響を及ぼしたが、しかし今も多く mountain が聖地として生き続け、そこには多くの文化財が伝えられている。日常生活や開発により変化が著しい市街地に比べると、山中にはいにしへの面影が色濃くのこる。山とそこに伝わる文化財は、歴史や文化を考える上できわめて重要な存在である。そのような山について、近年九州では、当館と当館に事務局を置く九州山岳霊場遺跡研究会を中心に、調査や研究が進められてきた。本展はその成果に基づくものであり、とくに九州ならではの特徴である大陸との交流の痕跡を色濃くのこす、筑前と肥前に焦点を絞って紹介した。九州の山岳霊場とその遺宝の魅力にふれ、また福岡県や九州の歴史や文化の特質に対する、理解を深める機会にしていきたいと思いますと願ってのことである。

展示の構成は、「三郡山地の仏たち」、「聖地四王寺山」、「脊振山地の尊像と人と」、「多良岳と雲仙岳の神仏」、「山々の大陸渡来文物―三郡山地から―」の5章からなる。「三郡山地の仏たち」では、福岡平野の東を縁どる三郡山地から、若杉山に伝わる古像の主要なもののほぼ全てをはじめとして、多くの重要な尊像を展示した。この章はまた、神仏分離で往時の面影を薄くした、山地の中核たる宝満山（竈門山・御笠山）のありし日の様相を浮かび上がらせるべく考えたものでもあった。「聖地四王寺山」では、665年に築城された大野城跡が存在することから、軍事拠点としての印象が強い四王寺山について、山名に冠される宝亀5年（774）に創建された四王寺（四天王寺・四王院）に注目しつつ、経塚出土遺物を中心としながら、奈良時代から近現代に至るまでの、聖地としての山のあり方を映す文化財を展示した。「脊振山地の尊像と人と」では、浮嶽や雷山、脊振山や天山などの山々に伝わる、尊像を中心とした文化財の数々を展示した。他もそうであれ、とくにこの、福岡県と佐賀県に跨り東西南北に広い脊振山地は実にさまざまな表情を見せていて、輪郭を浮かび上がらせることが一段と困難であったため、山地にかかる尊像と人の一端を、象徴的な尊像や文化財を通して垣間見てみることにした。「多良岳と雲仙岳の神仏」では、佐賀県と長崎県に跨る多良岳における、仏教的な信仰の中核であった金泉寺の秘仏本尊不動三尊像を展示し、長崎県の雲仙岳に関しては、その神である四面菩薩の唯一知られる現存作例である、諫早市天祐寺の四面菩薩坐像を展示した。「山々の大陸渡来文物―三郡山地から―」では、九州北西部に少なからずのこる大陸渡来文物の中から、宝満山伝来の薩摩塔や若杉山太祖神社伝来の宋風獅子をはじめとする、南宋時代の石造物を中心に展示した。展示室に集まった文化財は、これまで知られず未指定であっていてもみな重要で、各山の信仰やその盛衰を浮かび上がらせながら、山々に通底するあり方も浮かび上がらせた。それは、海ないしは大陸との多彩な結びつきである。山は神と仏と人を結び、九州北西部の山々は列島と大陸をも結んでいたことを、展示室で体感することができた。

展示資料：便宜上重文、県指定のみ。十一面観音立像（福岡県指定・佐谷区文化財保存会）、千手観音立像（福岡県指定・若杉霊峰会）、不動三尊像（福岡県指定・石井坊）、薬師如来立像（福岡県指定・谷川寺）、滑石製如来形立像（重要文化財・福岡・宇美八幡宮）、四王寺山経塚群毘沙門堂経塚出土資料（重要文化財・福岡・宇美八幡宮）、地藏菩薩立像（重要文化財・福岡・浮嶽神社）、清賀上人坐像（重要文化財・福岡・雷山千如寺大悲王院）、千手観音立像（佐賀県指定・東小松区）、日光菩薩立像・月光菩薩立像（佐賀県指定・晴気天山社）、広目天立像（重要文化財・大興善寺）、絹本着色見心来復像（重要文化財・佐賀・萬歳寺）、絹本着色以亨得謙像（重要文化財・佐賀・萬歳寺）、黒麻地二十五条袈裟（佐賀県指定・萬歳寺）、不動三尊像（長崎県指定・金

泉寺）、四面菩薩坐像（長崎県指定・天祐寺）、宋風獅子（福岡県指定・太祖神社）、白山神社経塚出土遺物（福岡県指定・館蔵）。

展示資料数：55件、約110点（重要文化財7件、県指定文化財12件、市町村指定10件）

図録：A4版、190頁、印刷部数2000部（販売部数1000部）、頒価1000円



◎企画展

3年度は、第1展示室の一部および第2展示室を会場として、6回の企画展を実施した。企画展は、例年、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第1展示室の約3分の1を使って行う大型の企画展というラインナップとなっている。

春には小学6年生の歴史学習を支援する第61回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」を開催した。第1展示室を特別展に使用する期間は、常設展示「歴史の宝石箱」を撤収することから、それを補うために第2展示室を会場に第63回企画展「歴史の宝石箱 ダイジェスト版」を実施した。これまで速報展をしてきた文化財調査室担当の企画展については、新たな取り組みとして近年、新規に国指定史跡となった安徳台遺跡（那珂川市）、朝倉須恵器窯跡群（筑前町）、阿恵官衙遺跡（粕屋町）、筑豊炭田遺跡群（飯塚市・田川市・直方市）の4遺跡を紹介した第64回企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史～新規国指定史跡～」を行った。

3年度に特徴的な企画展としては、福岡県置県150周年を記念して第62回企画展「福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～」を開催し、注目された。本展は、福岡共同公文書館が同時開催した企画展「福岡県政150年～第2部 アジアのなかの福岡～」と対になる展示であり、両展を観覧することで明治時代から現代にいたる福岡県のあゆみをたどることができる内容となった。

他館との展示連携としては、山本作兵衛コレクションのユネスコ「世界の記憶」登録10周年を記念した交流キャラバン展「炭鉱（ヤマ）の記録、世界の記憶」を田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会、田川市石炭・歴史博物館、田川市教育委員会の主催により、当館の第1展示室を会場として実施した。

○第61回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー 大昔のくらしと国づくり」

会期：令和3年4月20日（火）～10月10日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：福岡の大昔の人たちはどのような服を着ていたのか、食べ物は何を食べて暮らしていたのか、また日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクターである「きゅうおに」とともに縄文・弥生・古墳・奈良の各時代をタイムトラベルしながら探っていく小学生とくに歴史をはじめて学ぶ高学年の子供たちを対象とした展示である。教育普及の観点を重視し、歴史学習をより楽しくできるように、わかりやすくするために実物資料だけではなくレプリカやイラストパネルを多用した。第1展示室では実践にくかった子供たちへむけての展示を実践でき、さらに保護者や先生、同級生などと一緒に楽しめる企画でもある。



企画展ポスター

○第62回企画展「福岡県政150年 ～第1部 九州の中核をめざして～」

会期：令和3年8月3日（火）～9月26日（日）

※8月6日（金）～9月12日（日）は臨時閉館

令和3年12月18日（土）～令和4年1月23日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

共催：福岡共同公文書館

内容：令和3年は、明治4年の廃藩置県で福岡県が誕生してから、150年の節目の年に当たる。これを記念し、県政のあゆみを主軸に近代の福岡県について紹介するため、当館と福岡共同公文書館が連携して2部構成の展示を行った。

当館では、「第1部 九州の中核をめざして」と題して、廃藩置県前夜から昭和22年の日本国憲法・地方自治法施行までの時代を取り上げた。展示されたのは重要文化財1件、福岡県指定有形文化財3件を含む計63件で、戦前戦中の県政に関する多彩な資料を通して、福岡県が九州の中核として成長していく姿を紹介した。主な展示資料としては、柳河藩に廃藩置県を伝えた重要文化財「勅語之写」（福岡県立伝習館高等学校所蔵）、明治時代の県政資料、大正時代に建造された旧福岡県庁舎の模型および絵葉書、昭和戦中期の九州地方行政協議会関連資料、昭和22年に最後の官選知事から最初の公選知事へと引き継がれた「事務引継書」（福岡共同公文書館所蔵）などがある。なお戦後の福岡県政については、福岡共同公文書館が「第2部 アジアのなかの福岡へ」として、本展と同一主題・会期で展示した。

なお、本展は当初、令和3年8月3日（火）～9月26日（日）の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大により8月6日（金）～9月12日（日）は臨時閉館となり、会期の大幅な短縮を余儀なくされた。そのため共催館である福岡共同公文書館および各所蔵者の理解を得て、代替措置として令和3年12月18日（土）から令和4年1月23日（日）まで、再実施を行った。再実施では展示ケースおよび展示資料の一部は変更されたが、基本的な展示内容は当初会期のものと同一である。福岡共同公文書館開催の第2部についても、同じ会期で再実施されている。また当初会期中の8月27日（金）にはギャラリートーク、8月28日（土）には関連の九歴講座「近代府県行政と福岡県」を予定していたが、臨時閉館のため前者は再実施時の1月14日（金）に、後者は4年度の九歴講座に延期となった。



「福岡県政150年」展示風景（左）と再実施時のポスター

○交流キャラバン展「炭坑（ヤマ）の記録、世界の記憶」

会期：第1展示室：令和3年8月11日（水）～9月26日（日）

文化情報広場：令和3年7月27日（火）～10月3日（日）

※8月6日（金）～9月12日（日）は臨時閉館

会場：第1展示室（一部）・文化情報広場

主催：田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会、田川市石炭・歴史博物館、田川市教育委員会

協力：九州歴史資料館、北九州市立自然史・歴史博物館、

柳川市教育委員会、築上町教育委員会、大野城心のふるさと館

内容：山本作兵衛コレクションは、筑豊出身の炭坑画家、山本作兵衛の炭坑記録画を中心とする資料群である。山本作兵衛は、明治時代から長期間にわたり炭坑で働いた人物で、後に当時の炭坑の姿を数多く描いた。描かれた炭坑記録画は、かつての石炭産業の姿を伝える資料として高く評価されている。平成23年には、この炭坑記録画に山本作兵衛の遺品を交えた資料群が「山本作兵衛コレクション」として、ユネスコの「世界の記憶」に日本国内から初めて登録された。

本展は、この山本作兵衛コレクションが「世界の記憶」に登録されてから10周年となることを記念し、主催者が福岡県内各地で巡回展として実施したものである。当館でも第1展示室および文化情報広場を使用し、山本作兵衛コレクションについて広く紹介する展示とした。第1展示室では、「世界の記憶」に登録された炭坑記録画の原画および山本作兵衛の遺品を展示し、合わせて当館所蔵の炭坑記録画（「世界の記憶」の登録対象外）1枚も展示している。文化情報広場では、主催者の製作による山本作兵衛の紹介パネルを展示した。

なお本展は当初、上記の日程で開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休館により、8月6日（金）～9月12日（日）は臨時閉館となった。また当初会期中の9月5日（日）には、田川市石炭・歴史博物館の朝鳥和美氏による記念講演会「山本作兵衛コレクションからみる筑豊の炭坑」を予定していたが、臨時休館となったため中止され、4年度に九歴講座の一部として代替開催することとなった。



交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」展示風景

©Yamamoto Family

○第63回企画展 「歴史の宝石箱 ダイジェスト版」

会期：令和3年10月12日（火）～11月28日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：当館では、第1展示室において常設展を「歴史の宝石箱」と題して、福岡県を中心にして旧石器時代から近代にいたる考古、文献、仏教美術、工芸など多岐にわたる文化財を紹介し、福岡の歴史が分かりやすいなど好評を得てきた。しかし、特別展のおりには常設展示をすべて撤収してしまうため、常設展示の展示品についても見学したいという声もあり、ダイジェスト版で主要作品の展示を行った。なお、当初案では、平成25・27年度に行った企画展「いろいろな目で見たら～みんなが描いた九歴の収蔵品～」(小・中学校生などに展示品を自由に描いた絵画作品とともに展示を行う)と同様の展示を考えていたが、新型コロナウイルス感染症による対策のため変更を余儀なくされた。



旧石器から古墳時代まで



古代から近世まで

○第64回企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史～新規国指定史跡～」展

会期：令和3年11月30日（火）～令和4年4月3日（日）

会場：第2展示室

内容：当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で数々の成果を挙げている。平成23年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催しているが、3年度は新たな企画として、近年福岡県内で国史跡として指定された遺跡をパネルと出土遺物を交えて紹介する展示を行った。紹介したのは安徳台遺跡（那珂川市）、朝倉須恵器窯跡群（筑前町）、阿恵官衙遺跡（粕屋町）、筑豊炭田遺跡群（飯塚市・田川市・直方市）の4遺跡である。

関連事業として、会期中の12月24日（金）、タベのギャラリートーク（展示解説）を実施した。



企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史～新規国指定史跡～」展示風景

◎パネル展

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館2階の文化情報広場等において実施している。

3年度は、例年行っている保存科学機器による最新成果の紹介展示や、西谷正名誉館長の写真展などを開催した。また企画展の頁において紹介した交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」の一部も文化情報広場でパネル展の形式で開催したが、これについては新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨時閉館により、会期が短縮されている。

また、玄関右側の回廊では、三沢遺跡の紹介するパネル展も継続して行った。

○パネル展「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」

会期：令和3年7月13日（火）～7月25日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」は、福岡県宗像市を中心に広がる遺跡群で、平成29年度にユネスコの世界文化遺産に登録された。当館では登録前から、福岡県世界遺産室と共同でこの「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」に関するパネル展を実施し、登録に向けた機運の熟成と、登録後の理解の増進に努めてきた。3年度も例年と同様、福岡県世界遺産室作成の「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」の紹介パネルを展示し、福岡県が誇る世界遺産について、広く紹介する展示とした。



パネル展「世界遺産」展示風景

○パネル展「筑紫地区文化財写真展 ちくし再発見～ようこそ！古代日本の「西の都」へ～」

会期：令和3年10月5日（火）～10月24日（日）

会場：文化情報広場

主催：筑紫地区社会教育振興協議会 文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川市）の文化財を紹介する巡回パネル展である。通常は毎年開催されていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止が続き、3年度は3年ぶりの開催となった。今回のパネル展では、文化庁による日本遺産に認定された「古代日本の『西の都』」をテーマとし、かつて筑紫地区で大宰府政庁跡をはじめとする国際交流都市が存在していたことを示す文化財を、写真で展示した。



パネル展「筑紫地区文化財写真展」展示風景

○パネル展「邪馬台国への道 後編」

会期：令和3年10月26日（火）～令和4年3月27日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：『魏志』倭人伝に記された邪馬台国は、かつて倭国と呼ばれていた日本列島に存在したクニ（国）で、女王卑弥呼が統治したことで広く知られている。邪馬台国の所在地についてはさまざまな説があるが、『魏志』倭人伝に記された大陸から邪馬台国に至る道沿いの国々には、九州に比定されているものもある。そしてこの邪馬台国への道に面した国々の遺跡については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影されてきた。

本展では、2年度から3年度にかけて開催された名誉館長講座「邪馬台国への道」にあわせ、大陸の魏の都・洛陽から邪馬台国に至る道沿いの国々の遺跡について、前編・後編の2回シリーズで紹介した。当初の予定では、前編・後編とともに2年度に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う名誉館長講座の日程変更に合わせて、後編のみ3年度に開催したものである。後編では、九州本土に上陸した邪馬台国への道が、福岡県内や瀬戸内海沿岸を経て、近畿地方に至るまでに経た国々の遺跡を、西谷名誉館長撮影の写真パネルで取り上げた。

なお、西谷名誉館長の写真展については、4年度においても名誉館長講座に連動した新シリーズが予定されている。



パネル展「邪馬台国へ道」のポスター

○パネル展 保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2021－2022」

会期：令和4年3月29日（火）～6月26日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：全国的に注目を集めている古賀市船原古墳では、遺物埋納坑出土馬具を中心に様々な科学的調査が進められている。3年度までに実施した調査や保存処理により明らかになった最新情報をパネルで紹介した。



保存科学成果展展示風景

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、3年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平日以外にも、日曜日の閲覧希望も基本的に対応している。3年度の実績は考古資料貸出48件、同一次利用23件(延べ31日間)、文書・典籍資料貸出8件、同一次利用37件、写真資料貸出・掲載許可119件である。

考古資料の短期貸出一覧(1)

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	大野城心のふるさと館	9点	宗原遺跡出土槍先形尖頭器 他	特別展「歴史教科書でみる考古名品」展示のため	3. 4. 16～7. 中旬
2	九州国立博物館	7点	宗原遺跡出土角錐状石器 他	特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景ー」展示のため	3. 6. 11～4. 1. 中旬
3	甘木歴史資料館	63点	立野遺跡出土鉄鎌 他	企画展「朝倉の古墳」展示のため	3. 6. 22～10. 中旬
4	九州国立博物館	4点	西新町遺跡出土ガラス小玉鋳型 他	平常展「海の道、アジアの路」展示のため	3. 8. 上旬～4. 1. 31
5	田川市石炭・歴史博物館	17点	浦松遺跡出土瓦 他	『「山本作兵衛コレクション」ユネスコ「世界の記憶」登録10周年記念交流キャラバン展』展示のため	3. 7. 26～10. 4
6	太宰府市文化ふれあい館	2点	筑前国分寺出土仏像 他	「まるごと太宰府歴史館2021」展示のため	3. 7. 30～11. 30
7	文化庁	一括	大宰府跡出土資料	重要文化財指定調査のため	延期
8	朝倉市秋月博物館	20点	荒平城跡出土遺物 他	特別展「戦国筑前の雄秋月種実」展示のため	3. 10. 中旬～12. 中旬
9	糸島市立伊都国歴史博物館	42点	須玖岡本遺跡出土ガラス管玉 他	特別展「二万余戸の実像『奴国』」展示のため	3. 9. 27～11. 28
10	田川市石炭・歴史博物館	1点	伝糴上ノ原遺跡遺跡出土細形銅剣	常設展示のため	3. 9. 27～4. 3. 31
11	松口月城記念館	8点	別所次郎丸遺跡出土墨書土器 他	「那珂川黎明2021-那珂川市の古代遺跡と日本遺産 裂田溝」展示のため	3. 10. 18～12. 25
12	行橋市歴史資料館	28点	野添遺跡出土土師器 他	特別展「弥生の墳墓ームラからクニへー」展示のため	3. 10. 11～4. 1. 21

考古資料の短期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
13	九州国立博物館	27点	才田遺跡出土陶磁器 他	平常展「海の道、アジアの路」展示のため	3. 12. 上旬～ 4. 4. 19
14	糸島市立伊都国 歴史博物館	1点	築山古墳出土壺形埴輪	企画展「伊観縣の古 墳－その２ 中部編－」 展示のため	4. 1. 29～3. 21
15	九州国立博物館	2点	宮原遺跡出土刻印土器	平常展「海の道、アジアの路」展示のため	4. 3. 中旬～8. 下旬

考古資料の長期貸出一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4点	永岡遺跡出土甕棺 他	展示等利活用のため	1. 7. 1～4. 6. 30
2	京都国立博物館	1点	筑後石人山石棺石膏製 模型	展示等利活用のため	1. 7. 1～4. 6. 30
3	大韓民国国立羅州 文化財研究所	1点	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	2. 2. 1～5. 1. 31
4	九州国立博物館	203件	門田遺跡出土細石刃 他	文化交流展示室展示 等のため	4. 4. 1～5. 3. 31
5	国立歴史民俗博物 館	9点	広田遺跡出土浅鉢・深 鉢 他	総合展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
6	岩手県立博物館	4点	永岡遺跡出土弥生土 器、甕棺	展示及び調査研究の ため	4. 4. 1～5. 3. 31
7	甘木歴史資料館	42件	楠田遺跡出土縄文土器 他	常設展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
8	求菩提資料館	10点	銅製経筒・草花双鳥 鏡・蓬莱鏡	常設展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
9	福岡市博物館	2点	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
10	老司公民館	6点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
11	古都大宰府保存協 会	33点	大宰府史跡出土資料	常設展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
12	大野城市牛頸ダム 記念館	112点	牛頸須恵器窯跡出土須 恵器、写真パネル	牛頸ダム記念館展示 のため	4. 4. 1～5. 3. 31
13	筑紫野市歴史博物 館	108点	剣塚遺跡出土資料 他	筑紫野市歴史博物館 展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
14	直方市教育委員会	72点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方谷尾美術館展示 のため	4. 4. 1～5. 3. 31
15	古賀市教育委員会	19点	水上A遺跡出土縄文土 器 他	古賀市歴史資料館展 示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
16	春日市教育委員会	6点	伯玄社遺跡出土磨製石 鏃 他	奴国の丘歴史資料館 展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
17	伊都国歴史博物館	246点	三雲南小路遺跡出土資料 他	常設展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
18	八女市教育委員会	1点	真浄寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史資料館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
19	小郡市埋蔵文化財調査センター	一式	津古内畑遺跡出土資料、記録	報告書作成のため	4. 4. 1～5. 3. 31
20	筑前町教育委員会	177箱	依井遺跡出土資料 他	筑前町歴史民俗資料館等で展示、報告書作成のため	4. 4. 1～5. 3. 31
21	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺出土資料 他	粕屋町歴史資料館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
22	香春町教育委員会	84点	陣山屋敷遺跡出土資料 他	香春町歴史資料館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
23	みやこ町教育委員会	23点	徳永川ノ上遺跡出土資料 他	みやこ町歴史民俗博物館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
24	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳出土資料 他	鞍手町歴史民俗資料館展示のため	3. 4. 1～4. 3. 31
25	篠栗町教育委員会	117点	高田遺跡出土資料 他	篠栗町中央公民館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
26	須恵町教育委員会	419点	乙植木古墳群出土資料	須恵町立歴史民俗資料館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
27	福津市教育委員会	一括	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
28	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	3. 4. 1～4. 3. 31
29	太宰府館	9点	大宰府史跡出土瓦	太宰府館展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31
30	宮城県多賀城跡調査研究所	23点	大宰府政庁跡出土磁器	磁器の産地・年代同定する参考資料にするため	4. 4. 1～5. 3. 31
31	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2点	永岡遺跡出土甕棺	常設展示のため	3. 9. 1～4. 8. 31
32	栃木県立博物館	2点	門田遺跡出土甕棺	常設展示のため	3. 10. 1～4. 9. 30
33	宮若市教育委員会	17件	犬鳴遺跡出土資料	宮若市文化財収集・展示・交流センター展示のため	4. 4. 1～5. 3. 31

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	一括	流末溝田遺跡出土土器	調査研究のため	3. 4. 15
2	甘木歴史資料館	80点	立野遺跡出土筒形銅器 他	展示のための資料調査	3. 6. 4
3	個人	4点	宮原遺跡出土権 他	卒業論文執筆のため	3. 7. 25
4	個人	15点	京ヶ辻遺跡出土土器	調査研究のため	3. 7. 29
5	伊都国歴史博物館	38点	須玖岡本遺跡出土ガラス管玉 他	展示のための資料調査	3. 8. 5
6	秋月博物館	27点	荒平城跡出土遺物	展示のための資料調査	3. 8. 11
7	個人	31点	上唐原遺跡出土土器 他	調査研究のため	3. 9. 15・16
8	個人	8点	花簗2号墳出土鋸 他	調査研究のため	3. 9. 14
9	九州国立博物館	1点	徳永川ノ上遺跡出土釣針	複製制作のため	3. 9
10	個人	6点	勝浦峯ノ畑古墳出土鉄剣	卒業論文執筆のため	3. 10. 4・5
11	個人	41点	乙隈天道町遺跡出土石器 他	調査研究のため	3. 11. 4・5
12	個人	4点	岩崎資料	調査研究のため	3. 11. 2
13	個人	10点	広田遺跡出土石器 他	調査研究のため	3. 11. 25
14	個人	16点	新原・奴山1号墳出土鉄器	修士論文執筆のため	3. 11. 1・2
15	個人	8点	水城跡出土木器 他	調査研究のため	3. 11. 24～26
16	糸島市教育委員会	49点	下林西田遺跡出土土器	報告書作成のため	3. 11. 17
17	宮若市教育委員会	一括	犬鳴遺跡出土鉄滓	展示のための資料調査	3. 11. 12
18	個人	20点	クリナラ遺跡出土石器	卒業論文執筆のため	3. 12. 9
19	個人	3点	大宰府史跡出土土器	卒業論文執筆のため	3. 12. 22
20	春日市教育委員会	一括	原遺跡関係資料	説明板作成のため	3. 12. 22
21	個人	30点	深原遺跡出土石器 他	調査研究のため	4. 3. 22～24
22	九州国立博物館	1点	三雲遺跡南小路地区出土銅鏡	調査研究のため	4. 3
23	栃木県立博物館	44点	大野城跡出土鬼瓦 他	展示のための資料調査	3. 3. 16

文書・典籍資料等の短期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	大野城心のふるさと館	4点	今村家文書・地図絵図資料	企画展「戦国武将の書簡・国絵図」における展示	3. 7. 26～3. 9. 6
2	甘木歴史資料館	1点	伊東尾四郎文書	秋季企画展「朝倉三奈木・品照寺―三奈木の歴史と文化財―」における展示	3. 10. 23～ 3. 12. 19
3	香春町歴史資料館	6点	小幡政義絵画作品	香春の城展における展示	3. 9. 29～ 3. 11. 30
4	朝倉市秋月博物館	4点	小幡政義絵画作品	朝倉市秋月博物館開館4周年記念特別展「戦国筑前の雄 秋月種実」における展示	3. 10. 23～ 3. 12. 5

文書・典籍資料等の長期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	3. 4. 1～4. 3. 31
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	3. 4. 1～4. 3. 31
3	九州国立博物館	1点	筑豊工業高校資料	常設展示	3. 4. 1～4. 3. 31
4	福岡県教育庁筑豊教育事務所	7点	筑豊工業高校資料	展示のため	3. 4. 1～4. 3. 31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（1）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	3点	永江文書	調査研究	3. 4. 10
2	個人	3点	地図絵図資料	調査研究	3. 4. 23
3	福岡県文化振興課九博・世界遺産室	66点	林（美）文書・福岡藩関係史料・松村（ム）文書・羽野文書・地図絵図資料・一甲斐河野文書・越智文書	調査研究	3. 4. 27～3. 6. 15
4	個人	1点	福岡日日新聞	調査研究	3. 5. 5
5	個人	24点	福岡日日新聞	卒業論文	3. 6. 25～3. 10. 9
6	九州産業大学	25点	熊谷文書・永江文書・福岡日日新聞・図書	調査研究	3. 7. 3～3. 8. 3
7	九州国立博物館	4点	井本文書・石井坊文書目録・福岡県立図書館収集文書目録	調査研究	3. 7. 9
8	北九州市立自然史・歴史博物館	59点	安高文書	調査研究	3. 7. 9～3. 7. 24
9	福岡市博物館市史編さん室	27点	王丸文書	市史編纂	3. 7. 15
10	個人	12点	絵葉書	調査研究	3. 7. 20

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（２）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
11	新修宗像市史編さん委員会	47点	福岡日日新聞・西日本新聞・九州日報・図書	市史編纂	3. 7. 23～4. 3. 27
12	個人	3点	有田（建）文書	調査研究	3. 7. 28
13	太宰府市立太宰府東中学校	1点	西日本新聞	授業準備	3. 8. 3
14	桂川町立桂川中学校	1点	西日本新聞	授業準備	3. 8. 3
15	福岡市博物館学芸課	5点	岸田文書	展示準備	3. 8. 4
16	筑紫女学園大学	4点	安高文書	調査研究	3. 8. 25～3. 8. 31
17	個人	4点	福岡日日新聞	調査研究	3. 9. 1～3. 9. 15
18	福岡県人権研究所	2点	野田文書	調査研究	3. 9. 19
19	個人	1点	野田文書	調査研究	3. 9. 23
20	個人	16点	永江文書・地図絵図史料・絵葉書・福岡日日新聞	調査研究	3. 9. 25
21	山口大学	16点	貝原収蔵文書	調査研究	3. 10. 5
22	大阪経済大学	12点	野田文書	調査研究	3. 10. 19～4. 1. 23
23	個人	3点	福岡藩関係史料	調査研究	3. 10. 23
24	個人	10点	福岡藩関係史料	調査研究	3. 10. 28
25	個人	11点	西日本新聞・図書	卒業論文	3. 10. 31～3. 11. 7
26	個人	7点	花瀬村庄屋文書	調査研究	3. 11. 5
27	個人	40点	黒田家文書・糟屋郡史編纂史料	調査研究	3. 11. 23～3. 11. 25
28	九州大学記録資料館	7点	西日本新聞	調査研究	3. 12. 3
29	九州大学文学部	3点	野田文書	調査研究	3. 12. 4
30	個人	3点	福岡日日新聞・図書	調査研究	3. 12. 16
31	個人	5点	農業関係資料・大原社研資料	調査研究	3. 12. 22
32	個人	9点	山北村庄屋文書・図書	卒業論文	4. 1. 7
33	北九州市立自然史・歴史博物館	50点	林（美）文書・福岡藩関係史料	市史編纂	4. 1. 28～4. 2. 1

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（3）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
34	個人	24点	地図絵図資料	調査研究	4. 2. 10
35	早稲田大学文学学術院	45点	野田文書・永江文書	調査研究	4. 2. 25
36	個人	213点	永江文書	調査研究	4. 3. 24～4. 3. 25
37	個人	25点	秋月田代家文書・壱岐中尾家文書・伊東尾四郎文書・川島文書・熊谷文書・永江文書・花瀬村庄屋文書・渡辺（半）文書・小川文書・西尾家文書	卒業論文	4. 3. 30

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（1）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	木簡学会	8点	大宰府出土木簡	『木簡研究』第42号をインターネット公開
2	福岡県立アジア文化交流センター	20点	大宰府政庁の古写真他	研究論集に掲載
3	教育実務出版株式会社	1点	大宰府出土木簡	『精選日本史探究』に掲載
4	西都原考古博物館	3点	三雲遺跡出土品	特別展に使用
5	甘木歴史資料館	8点	杷木宮原遺跡全景他	パネル展に使用
6	福岡リーセントホテル	4点	「福岡鉄道遺産ものがたり」他	講演会で使用
7	個人	3点	稲童1号掩体他	『日本歴史』に掲載
8	読売新聞	2点	大宰府牒他	東博、九博、京博巡回展「最澄と天台宗のすべて」で使用
9	個人	2点	水城復元図他	長崎大学経済学部同窓会誌に掲載
10	ダンク・プランニング	1点	大宰府政庁復元模型	株式会社ハーバルアイ会報誌に掲載
11	福岡県立アジア文化交流センター	1点	大野城跡百間石垣	筑紫地区文化財写真展に使用
12	山川出版社	7点	有明会規則他	『福岡県の近現代』に掲載
13	西日本文化協会	6点	稲童1号掩体他	『西日本文化』第499号に掲載

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
14	木簡学会	1点	大宰府史跡出土木簡	『木簡研究』第26号をインターネット公開
15	木簡学会	5点	大宰府史跡出土木簡他	『木簡研究』第42号をインターネット公開
16	個人	5点	門田遺跡出土石器他	『鹿児島考古』第51号に掲載
17	行橋市教育委員会	4点	延永ヤヨミ園遺跡航空写真他	現地説明板に使用
18	法蔵館	1点	十四世無学文奕像	『臨済宗妙心寺派の近代』に掲載
19	大野城心のふるさと館	1点	御笠郡図	ホームページ、SNS、Youtubeに掲載
20	株式会社アルバ	1点	大宰府政庁復元模型	ポプラ社百科事典に使用
21	黎明館	1点	大宰府出土木簡	展覧会で使用
22	甘木歴史資料館	39点	上々浦遺跡全景他	展覧会で使用
23	知っとうかいな糸島	14点	三雲遺跡他	情報誌『知っとうかいな糸島』に掲載
24	九州大学附属図書館	1点	観世音寺絵図	ウェブサイトに掲載
25	西日本新聞広告社	3点	福岡市鳥瞰図	パネル展に使用
26	梓書院	28点	三雲遺跡出土土器	『東京新聞』『中日新聞』に掲載
27	霊山顕彰会	一式	瀬戸文書	会報誌『回天の道』第75号に掲載
28	福岡県立四王寺県民の森	5点	太宰府口城門他	史跡案内資料に掲載
29	太宰府天満宮文化研究所	2点	大宰府政庁跡全景他	パネル展示に使用
30	中津市教育委員会	1点	豊前国下毛郡津民荘香春口扇ヶ城之墟図	報告書に掲載
31	中央公論新社	1点	曲り田遺跡出土鉄製品	『日本の先史時代―旧石器・縄文・弥生・古墳時代を読みなおす』に掲載
32	太宰府市文化ふれあい館	1点	大宰府政庁跡北側からの撮影写真	「まるごと太宰府歴史展2021」における展示
33	山川出版社	2点	大宰府政庁復元模型他	『復元模型でみる日本歴史』掲載

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（３）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
34	青山地建	1点	昭和40年代政庁跡航空写真	座談会のインターネット配信挿図で使用
35	Thinking n Paper house	1点	柿原古墳群出土鉄器	『人はなぜ戦うのか』韓国語版に掲載
36	荒神谷博物館	1点	糸田町古賀ノ峯出土銅戈	特別展で使用
37	伊都国歴史博物館	38点	須玖岡本遺跡出土遺物他	特別展で使用
38	木簡学会	1点	大宰府出土木簡	『木簡研究』第17号をインターネット公開
39	海鳥社	1点	大野城跡遺構写真	『古代山城へのいざない』に掲載
40	小郡市教育委員会	1点	大宰府政庁跡遠景	『ふるさと小郡のあゆみ』に掲載
41	北九州市	1点	香月村寿命唐戸通舟図	『グラ・マップ北九州2022』に掲載
42	敬文社	1点	三雲遺跡出土遺物	『弥生国家論』に掲載
43	大野城心のふるさと館	2点	貝原益軒書簡他	企画展で使用
44	個人	2点	三雲遺跡遺構写真他	『日本前史（縄文、弥生から古墳時代へ）オートバイツーリングの遺跡巡り』に掲載
45	九州国立博物館	1点	英彦山大権現松会之図	特別展『海幸山幸ー祈りと恵みの風景ー』で使用
46	個人	1点	宝亀十一年具注暦断簡 赤外線写真	『考古学ジャーナル』に掲載
47	中津市歴史博物館	6点	円通寺木造阿弥陀如来立像	特別展「西向くサムライ～鎌倉幕府と豊前国～」で使用
48	岩手県立博物館	1点	永岡遺跡遺構写真	企画展で使用
49	西日本文化協会	4点	絵はがき〔名島飛行場〕他	『西日本文化』秋季号に掲載
50	中津市歴史博物館	1点	真浄寺2号墳甲冑	企画展で使用
51	鞠智城温故創生館	2点	大宰府跡出土鬼瓦他	企画展で使用
52	株式会社グレイル	2点	三雲遺跡出土遺物	『古代史の「舞台」を歩く』に掲載
53	栃木県立博物館	2点	門田遺跡出土甕棺	展示情報提供システムで使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（４）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
54	株式会社筑摩書房	1点	伯玄社遺跡出土磨製石鏃	『はじめての考古学』に掲載
55	海鳥社	1点	大宰府の防衛網	『古代山城へのいざない』に掲載
56	個人	一式	津屋崎古墳群出土玉類	研究発表会で使用
57	香春町教育委員会	23点	県内中近世山城他	企画展で使用
58	八木書店	1点	大野城跡遠景	『古代日本対外交流史辞典』に掲載
59	ケーブルステーション福岡	1点	御笠郡図	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用
60	朝倉市秋月博物館	7点	筑前秋月荒平城跡他	特別展「戦国筑前の雄 秋月種実」で使用
61	株式会社ディラナダチ	2点	徳永川ノ上遺跡出土遺物他	『歴史道』Vol. 18に掲載
62	那珂川市教育委員会	11点	別所次郎丸遺跡群出土遺物	展覧会で使用
63	個人	1点	遠賀郡図	『河川文化』第96号に掲載
64	古都大宰府保存協会	6点	水城銘墨書土器他	「特別史跡水城跡文化遺産巡りマップ」に掲載
65	九州国立博物館	1点	英彦山大権現松会之図	特別展記念講演会で使用
66	株式会社アフロ	1点	大宰府政庁復元模型	『地理資料集』に掲載
67	朝日新聞出版	1点	三雲遺跡遺構写真	『歴史道』vol. 18に掲載
68	朝日新聞出版	1点	山門ガラン遺跡写真	『歴史道』vol. 18に掲載
69	新修宗像市史編集委員会	2点	新原・奴山古墳群写真	市史に掲載
70	行橋市	6点	野添遺跡遺構写真他	展示で使用
71	大垣市教育委員会	1点	筑前国分寺塔跡全景	展示で使用
72	個人	1点	剣塚1号墳出土遺物	『考古学雑誌』に掲載
73	イカロス出版	1点	目尾炭坑	『炭坑遺産をゆく』に掲載

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（５）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
74	九州テレ・コミュニケーションズ	3点	水城経塚他	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用
75	九州テレ・コミュニケーションズ	2点	水城木樋	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用
76	太宰府観光協会	1点	大宰府政庁復元模型	子ども向け大宰府紹介パンフレットで使用
77	海鳥社	8点	九州歴史資料館外観	『九州考古学論考』で使用
78	山鹿市立博物館	2点	王塚古墳	展示で使用
79	大分県立埋蔵文化財センター	1点	大宰府政庁跡出土鬼瓦	企画展「豊の古代瓦」で使用
80	つくし青年会議所	3点	蔵司地区写真他	広報誌『TUKUSHI』No.61に掲載
81	対馬市	10点	黒田家文書	館内展示に使用
82	宮若市教育委員会	4点	犬鳴遺跡遺構写真他	常設展で使用
83	伊都国歴史博物館	3点	若八幡宮古墳写真	図録で使用
84	うきは市教育委員会	1点	鍵水文書	広報誌『うきは』1月1日号に使用
85	西日本文化協会	1点	安高文書 就寝時間累年統計表	『西日本文化』第501号に掲載
86	雄山閣	4点	大宰府史跡第1次調査他	『季刊考古学』158号に掲載
87	宮若市教育委員会	5点	清水寺木造十一面観音菩薩坐像他	常設展で使用
88	株式会社KADOKAWA	12点	岩戸山古墳全景他	『地域の古代日本シリーズ6 筑紫と南島』で使用
89	奈良文化財研究所	1点	長方形文様磚	展示・リーフレットで使用
90	伊都国歴史博物館	4点	三雲遺跡他	展示・図録で使用
91	個人	1点	野田大槐日記	論文で使用
92	西日本新聞社	1点	三雲南小路遺跡出土甕棺	連載記事で使用
93	中国出版社（韓国）	1点	門田遺跡出土爪形文土器	出版物で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（５）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
94	大宰府古都保存協会	1点	大宰府跡出土木簡	『都府楼』53号に使用
95	雄山閣	2点	門田遺跡出土爪形文土器	『別冊季刊考古学』で使用
96	久留米市教育委員会	2点	柿原古墳群	現地説明会で使用
97	個人	1点	白山経塚出土遺物	『東洋陶磁』第51号で使用
98	株式会社アーテファクトリー	1点	大宰府跡出土木簡	『令和4年度版「キホンの夏」歴史1』で使用
99	株式会社 敬文舎	1点	大宰府跡出土木簡	『琉球の考古学』で使用
100	九州国立博物館	2点	鬼瓦他	修理報告書で使用
101	文化財石垣保存技術協議会	1点	自然地形を利用した羅城の復元	『文化財石垣保存技術協議会研究資料集』第3集で使用
102	田川広域観光協会	1点	浦松遺跡遺構	『田川の観光歴史文化読本』で使用
103	田川広域観光協会	2点	古坊遺跡遺構	『田川の観光歴史文化読本』で使用
104	西日本文化協会	2点	永江文書	『西日本文化』502号に掲載
105	春日市教育委員会	4点	門田遺跡出土爪形文土器他	文化財ガイドブック『なるほど！かすかの文化財』で使用
106	株式会社ディラナダチ	2点	門田遺跡出土鉄戈他	『歴史人』4月号で使用
107	今川映画製作実行委員会	1点	大宰府政庁復元模型	自主制作映画で使用
108	古都大宰府保存協会	1点	筑前国分寺塔跡	『都府楼』53号に使用
109	兵庫県立考古博物館	1点	道添遺跡遺構写真	展覧会で使用
110	教育出版株式会社	5点	大宰府政庁復元模型他	教科書で使用
111	古賀市教育委員会	10点	船原1号墳出土品CT画像他	解説版、リーフレットで使用
112	太宰府市公文書館	2点	太宰府天満宮御境内之図他	『年報太宰府学』第16号で使用
113	太宰府市教育委員会	7点	太宰府口城門他	リーフレットで使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（6）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
114	古代山城関連事業 推進協議会	2点	水城跡遺構	『山城楽講 あゆみ』で使用
115	讀賣テレビ株式会 社	1点	大宰府政庁跡出土鬼瓦	番組「かんさい情報ネットten.」で使 用
116	同成社	2点	竹原古墳他	『王墓と装飾墓の比較考古学』で使用
117	生月町博物館	3点	山田教会他	『古写真から見た平戸』で使用
118	生月町博物館	1点	生月島在部の農家	常設展示で使用
119	FILE Publica- tions, inc.	1点	桂川王塚古墳石室	『全国的古墳図鑑』で使用

（４）学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

３年度の来館学習では、受け入れ人数を制限し、小グループに分かれて職員が引率する館内ツアー形式での学習プログラムを実施した。またエントランスに設置された大型サイネージを活用し、来館学習の際は最初にスライドを使ったオリエンテーションを行った。事前に見通しを持つことができ、児童・生徒の学習意欲も高まると引率の先生方から好評をいただいた。それに加えて、「博物館歴史体感ツアー」というプログラム名をつけることで、学習への参加意欲も高めることができた。



オリエンテーション最初のスライド



学習プログラムの紹介スライド

第１展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「推し」（お気に入り）をひとつ見つけるという課題を設定して学習活動を実施した。そのような活動を通して、児童・生徒達は、知識だけではなく、感性で文化財と出会うことができた。

第４展示室の遺構展示では、当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また、表面の触り心地や重さを感じることができるよう実物の土器や石器のハンズオン体験や銅剣・銅矛のレプリカを持ち上げる体験を行った。さらに中庭回廊では、科学を駆使して遺物を分析し、丁寧に修復、整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。それに加えて、整理作業室や新収蔵庫、特別収蔵庫の見学を行う「バックヤードツアー」は児童・生徒はもちろん、引率の先生方にも大変好評であった。今後も本館の埋蔵文化財センターとしての機能も来館学習を通して伝えていきたいと考えている。

学校団体の来館者総数は、以下のとおりである。

期 日	学校名および学年	来館者数
６月30日（水）	小郡市立のぞみが丘小学校（６年生）	114名
７月２日（金）	久留米市立東国分小学校（６年生）	120名
７月８日（金） 13日（火）	小郡市立三国小学校（６年生）	161名
10月13日（水）	荏田町立白川小学校（６年生）	15名
10月13日（水）	粕屋町立仲原小学校（６年生）	161名
10月27日（水）	行橋市立稗田小学校（６年生）	27名
10月27日（水）	北九州市立高見中学校（２年生）	64名
11月４日（木）	築上町立葛城小学校（６年生）	12名

期 日	学校名および学年	来館者数
11月11日（木）	北九州市立大積小学校（6年生）	19名
11月12日（金）	久留米市立御井小学校（6年生）	58名
11月12日（金）	行橋市立行橋小学校（6年生）	162名
11月15日（月）	小郡市立のぞみが丘小学校（2年生）	31名
11月21日（日）	行橋市立泉小学校（6年生）	6名
12月 5日（日）	九州産業大学	31名
1月16日（日）	久留米大学	6名
来館学習総数		1159 名

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施しているものである。児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学、考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は平成27年度から参画している。

通常の来館学習は1時間程度であるが、スクールミュージアム事業に関しては、1時間30分から2時間程度の時間を設定することが多いので見学に加えて、竪穴住居の組み立て体験等の体験学習を実施して好評をいただいている。また目の不自由な特別支援学校の生徒達にバラバラになった土器を組み立てる土器パズルの活動が好評であったので、今後ユニバーサルミュージアムの観点も大切にして、学習プログラムを検討していきたい。

実施校はと来館者数は以下のとおりである。

期 日	学校名および学年	来館者数
6月24日（木）	福岡市立東住吉小学校（6年生）	30名
6月25日（金）	久留米市立西牟田小学校（6年生）	58名
7月 7日（水）	朝倉市立蜷城小学校（6年生）	12名
10月27日（水）	久留米市立竹野小学校（5年生）	26名
11月 5日（金）	福岡県立柳河特別支援学校（6年生・中学部1～3年生）	10名
12月 3日（金）	福岡県立古賀特別支援学校（中学部2年生）	6名

○職場体験

例年、職場体験では、館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの体験のほか、警備、受付、清掃など、いろいろな業務を体験してもらっている。このことを通して、多くの人たちの様々な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指している。

3年度は新型コロナウイルス感染拡大を受けて、依頼はなかった。今後、中学校が職場体験を計画する際に、受け入れ先を確保することが難しい状況が予想される。県立の施設として、なるべく多くの生徒を受け入れられるように体験プログラムを検討していきたい。

○高校生インターンシップ

例年、高校生インターンシップは、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また小郡市にある県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施している。インターンシップでは、中学生職場体験よりも内容を充実させ、県立の歴史博物館ならではのプログラムを提供している。職業体験の機会の提供を通して勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指している。

研修の内容、参加学校・人数は以下のとおりである。

	午 前	午 後
1 日 目	開講式、館内見学、オリエンテーション、受付業務体験、	広報普及業務体験
2 日 目	学芸員業務体験、保存科学業務体験	遺物整理業務体験
3 日 目	図書業務体験	

期 日	学校名および学年	人数
7月19日（月） ～7月21日（水）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生） ・京都1名、太宰府2名、小郡2名、三潴1名	6名
7月31日（火） ～8月2日（木）	福岡県立三井高等学校（2年生）	3名
8月7日（火） ～8月9日（木）	福岡県教育庁等高校生インターンシップ（2年生） ・福岡2名、三潴2名、輝翔館2名	6名
	インターンシップ総数	15名

○出前授業

今年度は中学校2校からの依頼があった。新型コロナウイルス感染拡大の時期ということもあり、1校は校内の放送室からの授業を行い、もう1校はオンラインによる授業を行った。4年度はVRを活用したVR出前授業を開始するので、幅広く広報活動を行い、より多くの学校に出前授業を活用してもらえるように尽力したい。

3年度の受け入れ状況は以下のとおりである。

期 間	学校名および学年	人数
1月17日（月）	春日市立春日中学校2年生 「仏像の見かた」	182名
1月24日（月）	糸島市立福吉中学校2年生 「糸島市の仏像について ～糸島市の地理的特徴を踏まえて～」	29名

○オンライン授業

博物館機能に加え 埋蔵文化財センターや研究施設を兼ねる本館では、多くの学びを学校に提供することが可能である。しかしながら、多忙な学校現場において、校外学習を実施することが時間的、予算的に難しいという現状がある。そこでGIGAスクール構想により情報端末が整備されている教室と本館をインターネットで結ぶオンライン授業を3年度より立ち上げた。来館しての学習が難しい学校に対して、知的好奇心を高め、九州歴史資料館及び県内の博物館や文化財、今後の歴史学習に興味をもつきっかけづくりを行うことがねらいである。実施当初は試行錯誤であり、自治

体ごとに異なるネット環境に苦心することも多かったが、実績を重ねるごとにより充実した学習プログラムが提供できるようになった。また11月に那珂川中学校の3年生に実施したオンライン授業は西日本新聞の記事でも取り上げられた。それに加えて、民間の旅行会社が実施している県内の小学校4年生向けのオンライン社会科見学のコースに本館が入ったことで、客観的な評価や助言を得ることができ、さらに質の高いプログラムを提供できるようになった。



教室からみた授業の様子



展示室から中継をしている様子



双方向での質疑応答の時間



3000年前の遺物を解説



一人1台端末で自由に観覧



ホームページの活用

中学校3年生の感想

- ・ コロナ禍で見に行きたい人もなかなか行けなかったりする中で、こうして博物館に来たように体感できることは、たくさんの人にとって嬉しいと思います。今日は短い時間だったけどバーチャル歴史体感ツアーで歴史のことについて学べて良かったです！
- ・ 建物がガラス張りでもとてもきれいで、一つ一つの展示品の説明もわかり易く書いてあり、楽しい見学でした。今回はバーチャル見学でしたが、バーチャルでも自由に動くことができ、本当にその場にいるようでした。

授業の内容、参加学校・人数は以下のとおりである。

授業の内容

- 1 対 象 小学生・中学生・高校生
- 2 内 容 オンライン社会科見学 ～博物館バーチャル歴史体感ツアー～
- 3 主 眼 歴史博物館とのオンラインでの見学や解説を通して、博物館や文化財、歴史学習への興味・関心を高めることができるようになる。
- 4 準 備 ・WEB端末（児童・生徒一人1台）※学校の通信環境に合わせて対応。
・ZOOM、G o o g l e ミート、T e a m s に対応。
・事前の接続確認の実施
- 5 展 開（例）50分で設定

学習活動と内容	手立て	形態	配時
1 九州歴史資料館について知る。 本日の学習内容	○画面共有にして、スライドを使って九州歴史資料館の概要と本日の学習の流れを説明する。	一斉	10
学習課題 九州歴史資料館の「推し」を見つけて、歴史を学ぶ意欲を高めることができるようになる			
2 オンラインで館内探索を行う。 ・360度WEB観覧	○それぞれの端末から九州歴史資料館のホームページにアクセスさせ、「360度WEB観覧」のコンテンツを活用して疑似館内探索を行う。 ○合間に館内での中継を入れて臨場感を高める。	個別	10
3 特別展や常設展等を見学する。 ・私の「推し」を紹介します	○最初に展示室から中継で説明し、その後に展示物の写真と解説を載せたGoogleフォトのサイトにアクセスさせ、各自で作品を観覧する。 ○「お気に入り」を見つけるという視点をもって複数の展示の写真の中から気に入ったものを選ばせ、選んだ理由や紹介文をアンケートフォームに入力する。	個別	15
4 授業者に質問をする。	○双方向でのやり取りを行うことで、オンライン授業の価値を高める。	一斉	5
5 本時の振り返りを行う。	○本時の授業の自己評価と感想の記入を行う。	個別	10

参加学校・人数

日付	区分	学校名	学年	人数
10月7日	オンライン授業	鹿児島県日置市立伊作田小学校	6年生	12名
11月16日	オンライン授業	福岡県立香住丘高校	1年生	40名
11月18日	オンライン社会科見学	那珂川市那珂川中学校	3年生	161名
11月26日	オンライン授業 (来館学習事後学習)	小郡市立のぞみが丘小学校	2年生	33名
12月1日	オンライン授業 (来館学習事後学習)	小郡市立のぞみが丘小学校	2年生	33名
12月2日	オンライン授業 (来館学習事後学習)	小郡市立のぞみが丘小学校	2年生	33名
12月14日	オンライン社会科見学	筑紫野市立筑紫野中学校	1年生	40名
12月16日	オンライン社会科見学	筑紫野市立筑紫野中学校	1年生	39名
1月24日	オンライン授業 (出前授業代替)	糸島市立福吉中学校	2年生	29名
2月2日	民間旅行会社 オンライン社会科見学	福岡市立東箱崎小学校	4年生	53名
2月10日	民間旅行会社 オンライン社会科見学	福岡市立内浜小学校	4年生	161名
3月1日	オンライン社会科見学	太宰府市立学業院中学校	2年生	80名
3月2日	オンライン社会科見学	太宰府市立学業院中学校	2年生	160名
3月3日	オンライン社会科見学	太宰府市立学業院中学校	2年生	80名
3月3日	オンライン授業	福岡県立香住丘高校	1年生	40名
3月4日	オンライン社会科見学	うきは市立浮羽中学校	1年生	121名
3月7日	民間旅行会社 オンライン社会科見学	志免町立志免南小学校	4年生	67名
3月8日	民間旅行会社 オンライン社会科見学	福岡市立高宮小学校	4年生	81名
		オンライン授業総数		1,263名

○福岡県教育センターキャリアアップ講座

期日：令和3年8月3日（火）

内容：福岡県の教育センターでは、大学等の関係機関が実施する公開講座を、キャリアアップ講座として実施している。3年度より、福岡県教育庁文化財保護課の実施の講座を本館で行うことになった。研修は終日で、地域の歴史を児童に教える機会のある小学校の先生、日本史を生徒に教える機会のある中学校・高等学校の先生をそれぞれ対象として、県内の文化財を紹介しながら、様々なかたちで活用することができる文化財や学習プログラムを知ってもらう機会とした。22名が参加した。

実施した内容は以下のとおりである。



館内案内の様子

時間	内容	研修方法
9:30～10:00	研修オリエンテーション・館内案内	
10:00～11:00	福岡県の歴史と文化財―その魅力を学ぶ―	講義
11:00～12:00	文化財の面白さ―学校教育における事例―	講義
13:00～15:00	ワークショップ：文化財に触れる、体験する ①遺物の整理作業体験 ②実物の土器のハンズオン体験 ③学芸員によるギャラリートーク	講義・演習
15:00～15:30	アンケート記入・事務連絡	

○教員のための博物館の日 in 九歴

期日：令和3年9月18日（土）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画である。この事業は国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会との共催であり、文部科学省の後援を受けている。3年度は、先生方が夏期休業中である8月20日（金）に実施を予定していたが8月5日に福岡コロナ特別警報が発動されたことを受け9月に延期をした。当初は30名程の申し込みがあったが、9月に実際した参加者は8名であった。4年度は、先生方が参加しやすい夏期休業中に計画し、多くの先生方に来ていただけるよう広報を行っていきたい。



広報資料



遺物の修復作業の体験



古賀市船原古墳のVR体験

実施した内容は以下のとおりである。

<日程>

時 間	内 容	場 所
13:10～13:20	受 付	文化情報広場
13:20～13:30	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:30～14:10	館内見学（中庭、バックヤードを含む）	第2・4展示室 中庭・新収蔵庫等
14:10～14:20	休憩	
14:20～15:40	①ハンズオン体験「飛び出すむかしの宝物」から数点 ②ギャラリートーク ③VR体験	第1・4展示室
15:40～16:00	閉会行事（交流会・アンケート記入）	研修室

○教員向け研修会「地域の文化財を活用した授業づくり」

期日：令和3年11月19日（金）

内容：地域社会に対する誇りと愛情をもった児童・生徒を育成するためには、地域の教材をいかした社会科学習が大切である。しかし、地域教材の開発に困難さを感じている先生方も少なくない。そこで、そんな悩みを解消するために、特別展で取り上げる地域の小・中学校の先生方を対象として、平成28年度から開催している事業である。今回は、糟屋郡を臨む山々の歴史や文化財についての講話や実物資料の解説から学んでもらうとともに、九州歴史資料館が所蔵する文化財や地域の歴史資料を使った教材について紹介を行った。15名が参加した。



広報資料



特別展の様子



教材として活用できる文化財の紹介

実施した内容は以下のとおりである。

< 日程 >

時 間	内 容	場 所
13:20～13:35	受 付	文化情報広場
13:35～13:45	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:45～14:25	講話「九州北西部の神仏の姿 ―三郡山地・背振山地を中心に―」	研修室
14:30～15:15	特別展観覧（展示解説）・地域の歴史資料の解説	第1・2展示室
15:15～15:30	休 憩	
15:30～16:15	教材として活用できる文化財の紹介	研修室
16:15～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

（５）ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、３年を一期として活動している。３年度は、第４期目の３年目である。平成30年度に新規ボランティアを募集して３年度は、30名で活動を行った。２年度は、コロナ禍のため、２年度末からボランティア活動自体が休止しており、ほとんど活動ができない状態であった。そのため今期の任期を１年延長し、４年間（令和５年３月まで）とした。

平常時は、土日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。

３年度も２年度からのコロナ禍の影響を受け、通常通り古代体験を実施することができなかった。８月より屋外の古代体験のみ再開し、通常の古代体験は12月からの実施であった。また感染拡大の状況や、健康面で活動を控えたいボランティアもいる実情を考慮して、日曜曜日のみの実施とした。

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第二土曜日の午前中（10:00～）に定例研修会を設定している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントにおける役割分担の確認、活動日の調整である。後半は、学びある実践研修として、古代体験にかかわる内容や当館学芸員による展示解説を実施した。

実践研修の内容は以下のとおりである。

○バス研修会・交流会

期 日：令和３年11月17日（火）

訪問先：肥前国庁跡、佐賀城本丸歴史館、徴古館、大隈重信記念館、筑後川昇開橋

参加者：九歴ボランティア11名 職員6名 計17名

内 容：３年度は佐賀方面の史跡や博物館等への見学を行った。肥前国庁跡では、学芸員の解説を聞きながら、復元された南門や築地塀、基壇などを見て回った。佐賀城本丸歴史館では、まず、本丸御殿の一部を忠実に再現してつくられた本丸歴史館を職員の方に案内してもらい、本丸歴史館のボランティアの方々と交流を行った。来館者への対応をどのように行っているか、展示資料や歴史についてどのように学んでいるかなど、普段のボランティア活動における課題等について意見交換した。



佐賀本丸歴史館ボランティアのとの交流会



夕暮れの筑後川昇開橋を眺める

◎ボランティア活動

○古代体験

前述の通り、8月より屋外の古代体験のみ再開し、通常の古代体験は12月からの実施であった。また感染拡大の状況や、健康面で活動を控えたいボランティアもいる実情を考慮して、日曜日のみの実施とした。2年度は、新型コロナウイルスの影響でほとんど活動ができなかったことで、ボランティアのモチベーションの低下も懸念をされた。しかしながら活動再開を待ち望んでいたボランティアも多く、体験を通して来館者との関わりが増えてくるなかで、少しずつ活動に対する意識の高まりが全体に醸成されていったように感じている。3年度より、古代衣装変身ミラーが設置され、その体験の補助も積極的に取り組んでいる。また12月からの古代体験の再開に合わせて、VR体験の実施も開始した。4つのコンテンツのうち、比較的操作や設定が簡単で、座ったまま体験ができる「蓐衣婆坐像」のコンテンツを実施することにした。VR機器の操作を覚えることに苦慮するボランティアも多かったが、当館でしか体験ができない唯一無二のリアルな体験に価値を感じているボランティアも多く、意欲的に操作方法を覚えようとする姿勢が見られた。



铸造体験



拓本体験



古代衣装変身ミラー



投壺



VR体験－船原古墳石室－



VR体験－蓐衣婆像－

古代体験の3年度の利用実績は以下のとおりである。（休館や古代体験中止の時期があり）
 ※4月～8月まで変身ミラーと屋外体験（ぎっちょう・投壺、むかしの遊び）のみ実施

メニュー	利用者数	備考
鑄造体験	30名	
拓本とり	32名	
瓦マグネット	47名	
銅剣・銅矛	31名	
ぎっちょう・投壺	76名	
むかしの遊び	41名	
古代衣装変身ミラー	184名	
V R 体験	70名	令和3年12月開始

○ボランティアイベントの開催

期日：令和4年2月23日（祝・水）

内容：「My おひなさま・組紐ストラップを作ろう！」

平成25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。27年度からは、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施している。2年度はほとんど活動を行うことができなかったが、3年度はひな祭りの時期にあわせ、折り紙を使って自分だけのおひな様の作成や、組紐ストラップを作るイベントを計画した。しかしながら新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑みて中止になった。代替の企画として自宅で作成できるMyおひなさまキットを九歴ボランティアで50セット作成し、第4展示室のお持ち帰りコーナーに設置した。

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

世界でひとつのわたしのおひなさま

Myおひなさま
折り紙で作る自分だけのオリジナルおひなさまです

2月23日(水・祝)
13:30～15:30
古代体験会場(第4展示室) 参加無料 予約不要

九州歴史資料館
ボランティアイベント
Myおひなさま
My組紐(くみひも)ストラップづくり

組紐(くみひも)

※組紐ストラップの対象は小学生以上です
※大人の方も参加できます。

【お問い合わせ】九州歴史資料館
〒830-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL: 0942-75-9575 FAX: 0942-75-7834
【アクセス】(西鉄電車) 天神大牟田線 三国が丘駅より約700m
(J R) 鹿児島本線原田駅よりタクシーで約10分



○ボランティア自主活動「綿づくり」

2年度より、九歴ボランティアから館内で綿づくりを行いたいという打診があり、本館の中庭に畑をつくることになった。綿づくりを九歴ボラティアの自主活動と位置づけ、4月に種をまき、日々の熱心な手入れで順調に成長し、9月には立派な綿が吹いた。一連の成長の様子は、本館の新しい魅力のひとつとなり、7月下旬から8月上旬にかけて咲く花も大変好評であった。収穫後の綿は館の職員に謹呈したり、来館者への記念品として渡すことができた。その後ボランティアのメンバーで糸を紡ぎ、織るという作業も行った。12月にはボランティア主催の綿の作品の展覧会を第4展示室で行い、期間中には小郡市長をはじめ、のべ200名を超える見学があった。今後は自主活動ではなく、本館のイベントとして実施し、ボランティアの負担軽減を行いつつ、毎年の館の風物詩として定着を図る予定である。



4月 畑の準備



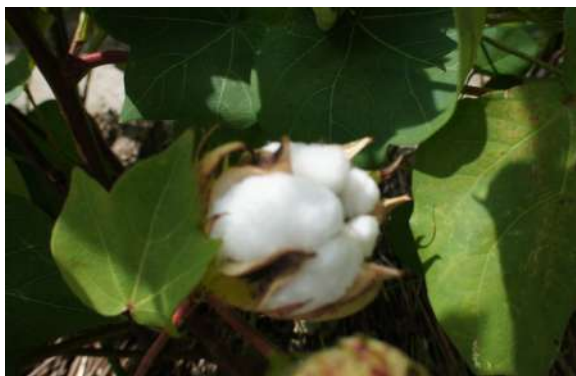
6月 敷き藁



7月 夏の日差しの下での成長



8月 花の開花



9月 綿が吹きだす



12月 綿の展覧会

（６）普及・活用事業

◎講座・講演会

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、主に第４土曜日に実施する連続講座である。通常は１年度１テーマで全１２回の連続講座であるが、３年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で２年度の名誉館長講座が完結しなかったため、２年度のテーマ「邪馬台国への道」を継続して実施した。そのため、新規受講者の募集は行っていない。さらに感染防止対策のため１回当たりの受講者人数を削減することとなったため、２年度に引き続き受講者をＡグループ・Ｂグループに２分割した上で、講座内容は６回分を設定し、同一内容の講座を２回（２か月）ずつ実施することで対応した。また新型コロナウイルス感染症拡大のため、一部の会では開催日を変更している。なお引き続き座席指定制を導入し、皆勤賞の発行は休止した。

最終的な開催日、演題、受講者数は次のとおりである。回数は、２年度よりの通算である。

回	期 日	演 題	受講人数
第４回Ａ	４月２４日	対馬国・一支国・末盧国（Ａグループ）	８５名
第４回Ｂ	６月２７日	対馬国・一支国・末盧国（Ｂグループ）	７７名
第５回Ａ	６月２６日	伊都国・斯馬国（Ａグループ）	７５名
第５回Ｂ	７月２４日	伊都国・斯馬国（Ｂグループ）	７２名
第６回Ａ	１０月２３日	奴国・不弥国（Ａグループ）	７４名
第６回Ｂ	１１月２７日	奴国・不弥国（Ｂグループ）	７６名
第７回Ａ	１２月２５日	投馬国（Ａグループ）	７３名
第７回Ｂ	１月２２日	投馬国（Ｂグループ）	７３名
第８回Ａ	１月２９日	邪馬台国「九州」説（Ａグループ）	６５名
第８回Ｂ	２月５日	邪馬台国「九州」説（Ｂグループ）	６５名
第９回Ａ	２月２６日	邪馬台国・狗奴国 - 近畿説（Ａグループ）	７５名
第９回Ｂ	３月２６日	邪馬台国・狗奴国 - 近畿説（Ｂグループ）	７２名
受講者数総計			８８２名



名誉館長講座

○九歴講座

内容：主に毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。3年度も全12回を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて一部の会が中止・延期となり、最終的に予定を一部組み替えた上で以下の通り実施し、延べ536名の方が受講した。なお感染拡大防止のため、3年度に引き続き定員を80名（および当館ボランティア）とした上で、事前予約制・座席指定制を導入している。

開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演題	講師（所属）	受講者数
第1回	4月10日	藤原広嗣の乱ーその経過と影響ー	松川博一 （九州歴史資料館）	86名
第2回	5月8日 →4年度	古賀市船原古墳1号土坑出土の玉虫装飾馬具について	西 幸子 （古賀市教育委員会）	延期
第3回	6月12日 →11月20日	久留米市梅林寺の文化財について～有馬入城400年を迎えて～	神保公久（久留米市市民文化 文化部文化財保護課）	66名
第4回	7月10日	完成された古代山城 怡土城跡と雷山神籠石	平尾和久 （糸島市教育委員会）	80名
第5回	8月28日 →4年度	近代府県行政と福岡県～昭和初期を中心に～	渡部邦昭 （九州歴史資料館）	延期
第6回	10月9日	九州北西部の霊峰の神仏の姿	井形 進 （九州歴史資料館）	89名
第7回	11月13日	首羅山遺跡と地域の歩み	江上智恵 （久山町教育委員会）	85名
第8回	12月11日	柳川藩の町と村	白石直樹（柳川古文書館）	47名
第9回	1月8日	大宰府史跡の出土品総覧	小田和利 （甘木歴史資料館副館長）	46名
第10回	2月12日 →中止	焼失した大宰府の兵庫ー2021年度大宰府史跡発掘調査報告ー	小嶋 篤 （九州歴史資料館）	中止
第11回	3月12日	求菩提山中興の祖 頼巖～国宝「銅板法華経」を勧進した天台僧～	栗焼憲児 （求菩提資料館館長）	37名
受講者数総計				536名



九歴講座

○九歴ゼミ

内容：第2・第4木曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。通常は7～8月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講だが、3年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響で、まず2年度に完結しなかった回を5月まで実施した。その上で、3年度も第1期は途中で臨時閉館を挟んだ7月と10月、第2期は11月～12月にそれぞれ4回ずつの開催とした。さらに第3期も新型コロナウイルス感染拡大等の事情により、日程を変更し、令和4年5月まで開催時期を拡大して全6回を実施した。例年も事前予約制だが、2年度以降は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を50名とした上で、座席指定制を導入している。なお、3年度は応募者全員を受講生とした。



九歴ゼミ

開催期間、演題、講師、各期延べ受講者数は次のとおりである。なお延べ受講者数は、3年度に開講された回の人数のみを計上している。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講者数
昨年度 延期分	4月8日～5月6日	中国陶磁史概説	遠藤啓介	78名
第1期	7月8日～10月28日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む ～大宰府の歴史編～	酒井芳司	155名
第2期	11月11日～12月23日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む ～菅原道真編～	松川博一	161名
第3期	1月13日～3月24日 →一部4年度	「福岡の美術－狩野派の展開・ 博多湾岸の古仏」	井形 進 日野綾子	85名
受講者延べ数総計				479名

○記念講演会

内容：特別展等の展示の開催を記念して講演会を実施した。当初3回の開催を予定していたが、1回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止され、2回を開催した（中止となった内容の講演会は、4年度に九歴講座として実施）。3年度も感染拡大防止のため、定員を80名（および当館ボランティア）とした上で、事前予約制・座席指定制を導入している。

開催日、演題、講師、受講者数は次頁のとおりである。



特集展示開催記念講演会

開催日	演題	講師	受講者数
9月5日（日）	交流キャラバン展開催記念講演会 「山本作兵衛コレクションから みる筑豊の炭坑」	朝鳥和美 （田川市石炭・歴史博物館）	中止
11月6日（土）	特別展開催記念講演会 「『翠竹黄華』としての見心来復像 一背振に抱かれた中国五山の禅林文 化」	井手誠之輔 （九州大学主幹教授）	53名
1月23日（日）	特集展示開催記念講演会 「律令制国家の辺要政策と大宰府」	吉村武彦 （明治大学名誉教授）	64名
受講者数総計			117名

〇タベのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。平成24年度からの新規事業として、学芸員が担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。例年、毎月最終金曜日の閉館後の16:30から17:30までで実施している。

3年度は、新型コロナウイルス感染防止対策として、定員を10名（および当館ボランティア）、時間は16:30から17:00（一部は17:30まで）とし、事前予約制とした。ただし第2回、第7回、第8回は新型コロナウイルス感染症拡大等の事情により、延期または中止となっている。

開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。なお、下記の他に特別展関連イベントに合わせて、ギャラリートークが開催されたこともある。



ギャラリートーク

	開催日	内容	講師	受講者数
第1回	7月30日	常設展Part. 1「近世・近代」	酒井芳司 渡部邦昭	7名
第2回	8月27日 →1月14日	企画展「福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～」	渡部邦昭	4名
第3回	10月29日	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」Part. 1	竹下正博 （佐賀城本丸歴史館）	14名
第4回	11月26日	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」Part. 2	井形 進	7名
第5回	12月24日	企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史～新規国指定史跡～」	森井啓次	6名
第6回	1月28日	特集展示「木簡からみた古代の大宰府」	酒井芳司	4名
第7回	2月25日	常設展Part. 2「中世・近世（考古）」	遠藤啓介	中止
第8回	3月25日	常設展Part. 3「近代の絵図」	日野綾子	中止
			参加者数総計	42名

○出前講座

内容：当館職員が外部の団体等の依頼を受けて館外の会場で実施する講座で、3年度は県民の要請を受けて計23回の講座に赴いた。なお3年度は、県政の課題などについて県職員が説明する「ふくおか県政出前講座」による出前講座はなかった。

3年度の実績は以下のとおりである。

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数
1	5月15日（土）	公立学校共済組合	福岡鉄道遺産ものがたり	福岡リーセントホテル	渡部邦昭	24名
2	7月17日（土）	公立学校共済組合	朝倉路のみほとけ - 古刹にみる朝倉の仏教文化 -	福岡リーセントホテル	國生知子	37名
3	7月30日（金）	ふれあい館三国	古代史探訪 磐井の乱	ふれあい館三国	酒井芳司	30名
4	9月18日（土）	公立学校共済組合	菅原道真と太宰府天満宮	福岡リーセントホテル	松川博一	30名
5	10月14日（木）	北九州シニアネットワークアカデミー	大和王権と筑紫君	北九州市立年長者研修大学校周望学者	松川博一	30名
6	11月3日（水・祝）	首羅山遺跡ツキイチ登山会	首羅山現地解説	レスポアール久山	井形 進	27名
7	11月18日（木）	放送大学	太宰府史跡指定100年	九州歴史資料館	吉田東明 進村真之	23名
8	11月19日（金）	放送大学	太宰府史跡指定100年	大宰府史跡	進村真之 小嶋 篤	23名
9	11月20日（土）	公立学校共済組合	九州の霊山の仏像と神像	福岡リーセントホテル	井形 進	22名
10	11月21日（日）	中間市・中間市観光まちづくり協議会	旧香月線・筑豊電鉄フットパス	中間市内（旧香月線跡地等）	渡部邦昭	18名
11	11月21日（日）	朝倉市教育委員会	平塚川添遺跡公園開園20周年記念シンポジウム	朝倉市朝倉地域生涯学習センター	入佐友一郎	95名
12	11月30日（火）	古都大宰府保存協会	太宰府史跡現地解説	大宰府政庁跡	小嶋 篤	50名
13	12月2日（木）	中間市教育委員会	令和の里 太宰府と万葉集	なかまハーモニーホール	松川博一	80名
14	12月18日（土）	「紫のたねをまく」の会	大宰府と紫草一木簡と正倉院文書からみた一	大分県日出町創造空間 kamosu	松川博一	30名
15	12月18日（土）	佐賀市教育委員会	大野城・水城の築城技術	肥前国庁跡資料館	入佐友一郎	30名
16	2月20日（日）	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	福岡のやきもの	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	遠藤啓介	20名
17	2月27日（日）	田川市教育委員会	炭鉱と学校の昭和史	田川市民会館	渡部邦昭	23名
18	3月13日（日）	中間市・中間市観光まちづくり協議会	旧香月線・筑豊電鉄フットパス	中間市内（旧香月線跡地等）	渡部邦昭	18名

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数
19	3月14日（月）	貴賓館ボランティア	大宰府史跡について	福岡市中央区民センター	吉村靖徳	20名
20	3月19日（土）	公立学校共済組合	博多駅と長距離列車	福岡リーセントホテル	渡部邦昭	59名
21	3月21日（月）	伊都国歴史博物館	糸島古墳日和	伊都国歴史博物館	吉村靖徳	30名
22	3月24日（木）	山口コミュニティーセンター高年クラブ	菅原道真公と大宰府	筑紫野市山口コミュニティーセンター	松川博一	25名
23	3月30日（水）	三国地区区長会	三国丘陵の古代遺跡	ふれあい館みくに	吉村靖徳	15名
受講者数総計						759名

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設解説

内容：学校団体以外の一般来館者に対しても、より深く当館を理解していただくために、事前申し込みのあった団体に対しては職員による施設解説を行っている。3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けて、一般の来館団体は大幅に減少し、6団体延べ98名の方々に案内を行った。解説依頼は生涯学習関係団体等のほか、学童保育施設等からは古代体験と合わせて当館を利用したいという依頼も受けている。

3年度の実績は以下のとおりであるが、記載しているものの他に、来館予約を受けながら来館中止となった団体が多数ある。

期日	団体名	来館者数
4月28日（水）	春日市白水ヶ丘保健福祉推進委員会	14名
10月12日（火）	国際交流サービス	26名
1月13日（木）	貴賓館ボランティア	8名
2月26日（土）	放課後デイサービス チルドハート久留米シエスタ	18名
2月26日（土）	放課後等デイサービス ソアラ	14名
3月30日（水）	放課後デイサービス チルドハート久留米シエスタ	18名
来館者数総計		98名

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

本事業に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視し、実資料を取り扱う事に対する影響を考慮しながら、実施について検討していたが、来館者と学芸員との対面でのやりとりになる事や、実際に触れる出土品を逐一消毒する事が不可能である点などを鑑み、2年度に引続き3年度も中止となった。4年度以降についても状況に応じて実施について判断する。

◎体験教室・イベント等

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じてもらうことや、子ども達に対して、学校教育と併せて自ら体感して学ぶことを通して、授業内容を深く理解し、歴史学習に対する意欲を高めことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

○キッズミュージアム

当時の暮らしの体験を通して、歴史・文化などに対する興味を高め、歴史や文化財を大切にする実践意欲や態度を養うことを目的に毎年実施している小学生向けの体験イベントである。通年型のプログラム（全3回）と単発で実施する短期プログラムを実施している。通年プログラムの第1回は新型コロナウイルス感染症拡大による県の緊急事態措置に伴い中止となった。

また、今年度よりコロナウィルス感染拡大を受けて中止していたナイトミュージアムをリアル脱出ゲーム風にアレンジして冬の短期プログラム内で実施した。満足度も高く、また参加したいという意見も多かったため、次年度はナイトミュージアム「リアル脱出ゲーム」として独立した短期プログラムを計画する。

3年度の内容は以下の通りである（参加者数は申し込み本人のみの人数。引率の家族は含まない）。

キッズミュージアム通年プログラム

期 日	内 容	参加者数
5月30日（日）	貫頭衣作成、田植え体験	中止
8月1日（日）	弥生土器作り	15名
10月17日（日）	石包丁作り、稲刈り体験	15名

キッズミュージアム短期プログラム

期 日	内 容	参加者数
4月25日（日）	「古代の生活体験2021・春」 竪穴住居組み立て・弓矢体験	18名
12月19日（日）	「古代の生活体験2021・冬」 紙漉きで年賀はがき作り・リアル脱出ゲーム	18名



通年プログラム第3回 稲刈り体験の様子



堅穴住居組み立て・弓矢体験



通年プログラム



紙漉き・リアル脱出ゲーム

○古代体験まつり

期日：令和3年11月28日（日）11：00～15：00

内容：過去に九歴ボランティアのバス研修で訪問した3つの資料館・博物館（糸島市立伊都国歴史博物館・八女市岩戸山歴史文化交流館・宗像市海の道むなかた館）と近隣の施設（九州国立博物館・小郡市埋蔵文化財調査センター・春日市奴国の丘歴史資料館）に参加を呼びかけ、それぞれの施設が行っている古代体験を実施してもらい、参加者が1日でいろいろな体験ができるイベントを開催した。

九州歴史資料館の体験としては、通常実施している古代体験のほかに、元年度の古代体験まつりでも好評だった堅穴住居組立体験を3年度から実施し、3年度から運用を開始したVR体験（船原古墳石室）を実施し、多くの来館者が体験をしている。館内は多くの体験者で賑わい、400名を超える来館があった。



古代体験まつりポスター

資料館・博物館等	体験内容	延べ体験者数
九州国立博物館	きゅーはく号	106名
糸島市立伊都国歴史博物館	青銅器鋳造体験	82名
八女市岩戸山歴史文化交流館	弓矢体験、石包丁づくり	120名
宗像市海の道むなかた館	土笛づくり	43名
小郡市埋蔵文化財調査センター	印鑑づくり	49名
春日市奴国の丘歴史資料館	奴国せっけんづくり、勾玉づくり	129名
九州歴史資料館	瓦マグネットづくり、拓本採り、ぎっちょう投壺、堅穴住居組立体験、VR体験	306名
延べ体験者総数		835名



鑄造体験



奴国せっけんづくり



弓矢体験



きゅーはく号での民族楽器体験

○なるほど!!こども歴史教室

期日：令和3年10月3日（日）10：00～12：00 14：00～16：00

内容：毎年、夏休み期間中に小学生を対象として行うイベントであるが、3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のために秋季に実施した。今回は「九歴 歴史ミッション2021 古墳の内部と博物館の裏側を調査せよ」と銘打ち、展示見学・VR体験・バックヤード見学を行った。子どもたちには、発掘作業や調査研究をVRを通して体験したり、実際の調査・研究に使用されている機器を間近で見学したりする機会となった。参加者は午前・午後の部あわせて32名である。



VR体験「船原古墳石室・遺物埋納坑」

○アクロスミュージアムコンサート

期日：令和3年11月14日（日）13：30～15：30

第1部 13：30～14：00 第2部 15：00～15：30

内容：公益財団法人アクロス福岡との共催事業として開催され、例年、特別展開催の記念イベントと位置づけている。プロのアーティストによる本物の音楽に触れる機会を作ること、当館に親しみを持っていただくとともに、来館者が特別展を観覧することで、本県の歴史や文化への興味や理解を深めていただくこと、さらには、文化財保護思想を普及させることを目的としている。

3年度は、特別展のタイトルである「九州山岳霊場遺宝」をイメージしつつ、山口修（ギター）と永田明（フルート）の息の合った美しいアンサンブルが繰り上げられた。演奏された楽曲は、バッハ「アヴェ・マリア」、モーツァルト「トルコ行進曲」、ヴィラロボス「花の分布」など、計14曲であった。

コロナウイルス感染拡大の影響により、当日の客席は椅子の間隔を空けて配置し、通常の半分の50席定員とした。2回の公演の間に椅子を消毒するなどの感染対策を行った。参加者は立ち見を含めて147名であった。



アクロスミュージアムコンサート

○文化財めぐり

期日：令和4年1月15日（土）11：00～16：30

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課）

内容：特集展示 重要文化財指定記念「木簡からみた古代の大宰府」（令和3年12月18日～令和4年2月13日）の関連イベントとして、文化財めぐり「大宰府木簡の出土地を歩く」を実施した。展示担当者が展示されている木簡について解説をしたのち、実際に木簡が出土した現地をめぐり、木簡と遺跡との結びつきを実感してもらった。具体的には大宰府政庁跡やその西に位置する蔵司西地区、観世音寺、戒壇院などの木簡出土地を見学し、あわせて発掘調査中であった蔵司地区の調査現場で発掘担当者から発掘の最新成果について説明を受けた。大宰府政庁跡では大宰府展示館の展示を観覧し、観世音寺では解散後に希望する方だけ宝蔵において重要文化財の仏像をはじめとして寺宝の数々を拝観した。参加者は18名であった。参加者からは、これまで参加した大宰府の史跡めぐりと一味違って、大宰府の史跡への理解がさらに深まったとの感想をいただいた。



蔵司跡



観世音寺

○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：久留米まち旅博覧会事務局

共催：九州歴史資料館

内容：「いつでもまち旅」は、久留米まち旅博覧会事務局主催の事業で、自元に暮らす人々が普段から慣れ親しんだ地域の宝物で、自らが訪れる人をもてなす手作りの旅プランをコンセプトに行っている。当館は平成26年度から「いつでもまち旅」に参画しており、一般の来館者が立ち入ることのできない博物館の裏側を学芸員が案内するバックヤードツアーと本物の瓦を用いた拓本のブックカバーの作成を行っている。3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため10～1月にのみ開催しており、参加人数は22名であった。



いつでもまち旅2021

○古代衣装変身ミラー

従前から実施している鑄造体験や拓本、ハンズオン体験などの「古代体験」に加え、新たな体験アイテム「古代衣装変身ミラー」を3年度から供用開始した。

これは、8種類の古代衣装をデジタル画面を通して開館中は常時試着体験が可能となる装置で、①コロナ禍であることに配慮して操作は非接触になっていること、②利用者に合わせて衣装のサイズが変更され、大人から子供まで利用できること、③画像として各自の携帯端末に保存できること、という3つの特徴がある。3年度における利用回数は8,164回と推定された。



古代衣装変身ミラー

◎その他関連機関・団体との共催事業

○全国歴史民俗系博物館協議会

全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）は、平成23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった12館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

歴民協の第9回年次集会は、令和2年6月11日（木）・12日（金）に、宮城県多賀城市の東北歴史博物館にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、年次集会を令和3年6月17日（木）・18日（金）に延期し、総会は書面開催となった。

延期された第9回年次集会は、緊急事態宣言の発出により、再度の延期となり、令和4年2月16日（水）開催に向けて準備を進めていたが、感染拡大のため、中止となった。また多賀城市での開催は、これ以上は延期せず、代表幹事館も東北歴史博物館から事務局のある国立歴史民俗博物館に引き継ぎ、職務を代行することになった。

○第11回九州山岳霊場遺跡研究会「宝満山の古代山岳信仰」

期日：令和3年10月30日（土）・31日（日）

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催 九州歴史資料館・筑紫野市教育委員会・太宰府市教育委員会

後援 宝満宮竈門神社・太宰府天満宮・宝満山修験道・日本山岳修験学会

内容：10月30日（土）

現地研修会（竈門神社周辺の宝満山関連史跡等）（解説：山村信榮氏・高橋学氏）

10月31日（日）

研究集会（太宰府天満宮余香殿）

基調講演「宝満山の山岳信仰」（森 弘子氏）

調査報告「宝満山遺跡群の調査成果」（山村信榮氏）

研究報告①「宝満山祭祀の創始と展開」（酒井芳司）

研究報告②「最澄造立の檀像とその様相―竈門山と檀像薬師をかなめとして―」

（井形 進）

研究報告③「宝満山遺跡群と古代祭祀」（小嶋 篤）

シンポジウム「宝満山の古代山岳信仰を考える」（司会：松川博一）

参加人数：1日目62名・2日目157名



現地研修会（宝満山）



研究集会 基調講演（森弘子氏）

（７）重点施策

〔福岡歴史文化発信・体感事業〕

◎文化財データバンク

○報告書・写真のデジタル化

平成31年度から令和３年度までの３カ年をかけ、過去に福岡県が発掘調査を実施し、調査報告書として刊行した発掘調査報告書についてデジタル化を行い、ホームページ等を活用して順次公開することとした。あわせて、発掘調査の成果（現場・出土遺物）を撮影したフィルムの写真資料をデジタル化し、記録の保存、および活用に資するための事業を開始した。３年度は、東九州自動車道関係をはじめ、国道バイパス等の発掘調査報告書及び写真資料を中心に整理を行い、デジタル化の作業を行った。電子化を行った報告書については順次九州歴史資料館ホームページ等を利用して公開しており、写真資料については整理が整い次第、借用や公開など広く活用できるように整備を図る。

（８）広報活動

◎一般向け広報

当館では、平成25年度から学芸調査室に広報普及班を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に平成30年度からは近隣の３つの公民館で回覧板に添付してもらうことにした。こうした周知方法では、展示やイベントの内容や対象とする世代に合わせて、企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて、当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○ホームページ

今までホームページ更新は、社会教育総合センターの担当者出勤日のみの更新となり、更新作業に時間がかかっていたが、新たに当館独自のサーバーが設置されたことにより、本館の担当者がリアルタイムに更新できるようになった。また令和３年５月をもって社会教育総合センターのアドレスになっていたURLが<https://kyureki.jp/>に移行した。Twitterの運用とともに、速報性が高い情報を発信できるようになった。



速報性の高まったホームページ

ホームページの移行に伴い、ホームページと連動した広報が可能になった。2年度からホームページの周知や活用を促すために二次元コードを導入している。広報資料を作成する際にホームページとTwitterにアクセスできる二次元コードを掲載するようにした。また広報誌にお知らせを掲載する場合も、詳しくはホームページをご覧くださいと一文を入れ、二次元コードを掲載するようにした。それに加えて、バナー活用例の画像を作成することで、どの職員でも簡単に活用できるように工夫している。



ホームページとTwitterの二次元コード

九州歴史資料館

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

TEL : 0942-75-9575

FAX : 0942-75-7834

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3

アクセス

(西鉄電車) 天神大牟田線
三國が丘駅より約 700m

(J R) 鹿児島本線原田駅より
タクシーで約 10分

ポスター用のバナー活用例

○館内360° バーチャル体験コンテンツ

事業は、コロナ禍における「新しい生活様式」への対応が求められる中、自宅や遠隔地で来館しにくい学校等で、当館の利用をウェブ上で疑似体験していただき、博物館や文化財に対する興味や関心を高めてもらうことを目的に2年度から行っている。制作にあたっては、バーチャル体験の利用者に当館や文化財の魅力ができるだけ伝わるよう「常設展示」「特別展示」「バックヤード」「館内・館外」の4つのコースを開設することとした。またバーチャル観覧の広報チラシを作成し、館内や館外に掲示している。



館内360° バーチャル体験コンテンツ



広報資料

〇SNS（Twitter・YouTube）

九州歴史資料館に関する様々な取り組みを紹介し、館の魅力をPRするために、Twitterでの情報発信をおこなった。投稿内容は、展示・イベントの告知や実績報告、季節の話題などで、「ぼく、きゅうおに」という一人称を用いながら、親しみやすい内容でのリアルタイム発信を心掛けた。

また、YouTubeで動画投稿をおこない、ホームページからのリンクを設定した。投稿は、「大宰府史跡」のPR動画1本と、企画展「福岡県政150年」の解説動画5本である。

なお、平成28年度から運用を開始したTwitterは、3年度末までに976のフォロワーを獲得し、2年度から運用を開始したYouTubeは、3年度末までに75のチャンネル登録を獲得している。



Twitter画面

SNS名	年間投稿数	年間閲覧数（インプレッション/再生数）	年間フォロワー チャンネル登録増加数	累計フォロワー チャンネル登録数
Twitter	184	451,554	507	976
YouTube	6	701	—	75

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。また他施設からの広報チラシを当館開催の講座で配布した一方、当館チラシについても他施設での配布を依頼し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。

〇県政PR展示

会期：令和3年9月21日（火）～10月3日（日）

令和3年12月21日（火）～令和4年1月9日（日）

会場：福岡県立図書館 1階第1閲覧室

主催：福岡県立図書館

内容：県立図書館では、本館1階第1閲覧室で県政に関わるPR活動とともに関係する書籍を展示する事業を行っている。3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い予定を一部変更した上で、秋には企画展「福岡県政150年」、特別展「九州山岳霊場遺宝」および関連イベント等に関するポスターを掲示し、冬には企画展「福岡県政150年」（再実施）、特集展示「木簡からみた古代の大宰府」、企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史」を中心としたポスターを掲示した。



県政PR展示の展示風景

○よかもんひろば利用広報

会期：令和3年9月6日（月）～9月30日（木）
会場：福岡県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」回廊

主催：物産観光展示室「福岡よかもんひろば」
内容：福岡県観光政策課では、県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」で県内市町村、庁内各課及び各種団体が主催する観光・物産PRイベント等を行っている。3年度は、9月に開催した企画展「福岡県政150年」、交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」のポスター等を掲示した。



よかもんひろば利用広報の展示風景

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

会期：令和3年8月9日（月）～8月15日（日） ※中止

主催：公益財団法人 アクロス福岡

内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。3年度は企画展「福岡県政150年」、交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」等のポスター展示と大型スクリーンでの展示画像の上映を予定していたが、福岡県コロナ特別警報の発出に伴い予定期間中の当館が臨時閉館となったことから、中止となった。

○田川市石炭・歴史博物館交流展示

会期：令和3年7月27日（火）～10月3日（日）

会場：田川市石炭・歴史博物館2階ロビー

主催：田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会、田川市石炭・歴史博物館 田川市教育委員会

内容：当館で開催した交流キャラバン展「炭坑の記録、世界の記憶」（詳細は27頁を参照）の開催中、主催者と当館の交流事業として、主催者の一つである田川市石炭・歴史博物館において当館を紹介する展示を行ったものである。当館から考古資料と紹介パネルを出品した。考古資料では、福岡県および当館が田川郡内で行った発掘調査の出土品を展示した。あわせて当館の概要と出品資料の出土遺跡等について紹介するパネルも展示している。

◎博学連携・学習支援に向けた広報

博学連携への観点から、広報普及班の在籍教員を中心となって学校への広報活動を行っている。具体的には校長会や研修会でお時間をいただき、当館の教育普及事業の説明を行ったり、広報資料の作成や配付を行ったりしている。広報資料に関しては、直接手渡しを行う場合に加えて、教育委員会を通じた資料の配付も行っている。今後はホームページやTwitter、またメールを活用した広報活動を充実させていく計画である。



先生方向けの館のPR



企画展示の広報



オンライン授業の広報

このほか下記の広報を行った。

- ・『九歴だより』年2回（4月・11月）発行・配布
- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店・スーパー等の店舗
- ・県・小都市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごりほか
- ・雑誌への情報掲載

『博物館研究』『古代文化』『日本歴史』『ぐらんぞ』ほか

- ・情報サイトへの情報提供
イベントバンク・いこーよ・アクロスおでかけナビ ほか
- ・県庁1階デジタルサイネージ利用広報
- ・特別展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供

なお、館のアピールを行うため、平成29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みであり、これに参加して施設情報を掲載した。



『九歴だより』第54号

（９）実習・研修

◎博物館実習

内容：３年度は８大学から１２名の実習生を受け入れた。当初は例年通り１０日間の実習を予定していたが、実習開始直前に福岡県コロナ特別警報が発出され、密状態回避を徹底するため、やむを得ず実習生を前期・後期の２グループに分け、各グループ５日間ずつの短縮日程で実施した。さらに２年度に引き続き密になる内容の講座を変更するなどして、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めた。

参加した実習生の在籍校および人数ならびに実習カリキュラムは以下のとおりである。



大宰府史跡の見学

期間	大学名	学部名	学科名	実習生数
前期 8月17日（火） ～21日（土）	久留米大学	経済学部	文化経済学科	1名
	九州産業大学	国際文化学部	日本文化学科	1名
	筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	1名
	佐賀大学	芸術地域デザイン学部	芸術表現コース	1名
	京都女子大学	文学部	史学科	1名
	龍谷大学	文学部	歴史学科	1名
後期 8月23日（月） ～27日（金）	西南学院大学	文学部	英文学科	1名
		国際文化学部	国際文化学科	1名
	福岡大学	人文学部	歴史学科	4名

博物館実習カリキュラム（前期のもの、後期も概ね同じ）

日程	午前	午後	担当
第１日	オリエンテーション 開講式 講話「教育普及」	講話「学芸員の実務」 施設見学	広報普及班 学芸研究班
第２日	遺跡の調査と測量・大宰府史跡の見学		調査研究班
第３日	歴史資料の取り扱い		広報普及班 学芸研究班
第４日	美術工芸資料の取り扱い	考古資料の取り扱い	学芸研究班
第５日	資料の保存修復と保管	実習のまとめ 閉講式	保存管理班 広報普及班

◎九州歴史資料館文化財研修

県内市町村の文化財担当職員の知識及び技術の向上を支援するために、文化財研修を行った。

平成29年度から実施している「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」は、実務経験が少ない新規採用職員等を対象としたもので、埋蔵文化財の調査・事務処理の知識伝達を行った。当初は全7回の講座として企画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により第1回を中止し、全6回で実施した。

また、埋蔵文化財以外にも多様な分野の文化財を担当する市町村職員の支援を充実させるために、研修で取り扱う範囲を埋蔵文化財以外の分野へ拡充することを目指し、研修全体の内容と仕組みを整えた。4年度からの本格実施を目指し、3年度は、「有形文化財基礎研修」を1回実施した。

○埋蔵文化財発掘調査基礎研修

回	開催日		テーマ	内 容					
1	5月27日 (中止)	埋 文 事 務 手 続 き	埋蔵文化財に関する法律	講義	文化財保護法・関連法令				
			埋蔵文化財事務手続き		事務手続きの流れ、九州地区基準・県取扱要綱				
					事前審査				
					試掘確認調査				
					埋蔵文化財関連国庫補助事業				
2	7月16日	発 掘 調 査	事前準備	講義	発掘調査着手にかかる諸手続き				
					着手前の現地確認				
					調査計画の策定				
					作業員の募集と雇用				
					安全衛生管理				
			本調査		機材の搬入				
					表土剥ぎ				
					遺構検出				
					遺構掘り下げ				
					図化				
					写真撮影				
					撤収・埋め戻し～引き渡し 終了後の保護法上の手続き等				
					3	10月22日	図化実習	実習	測量機器の取り扱い
							発掘調査実習		遺構の検出・掘削の基礎、図化
4	11月26日	整 理 ・ 報 告 書	整理・報告書作成	講義	整理作業の流れ				
					文章の作成、編集、入稿、校正				
				実習	遺構割付、遺物割付				
5	12月16日	実測、写真撮影	講義	土器実測					
				実習	写真撮影の方法				

6	1月21日	作成	拓本・実習	実習	拓本
					石器、金属器等実測
7	3月4日	保存管理	トレース	実習	トレースの方法
			特殊遺物の対応	講義	特殊遺物の対応
			遺物の保存管理		遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際

○有形文化財基礎研修

回	開催日	テーマ	内 容	
1	3月11日	文化財（美術工芸品）の基礎知識	講義	古文書の基礎知識と取り扱い
				彫刻の基礎知識
				美術工芸品の保存修理
				各種の補助・助成のメニュー



埋蔵文化財発掘調査基礎研修



有形文化財基礎研修

(10) 市町村支援

◎市町村等への技術支援

当館職員による市町村への技術支援は、2年度に策定した『福岡県文化財保護大綱』の記載内容に基づき、「九州歴史資料館文化財研修」と対になるものとして、3年度に取り組みが強化された。なお、本支援については、研修により得た知識だけでは解決することができない現場の事象に対する実地でのアフターフォローという側面も、今後はあわせ持つことになる。

3年度の実績としては、以下に記す69件の依頼を受けて、当館の職員が市町村に対する技術支援を行った。しかし、一つの派遣文書で複数回の支援を行う案件が多いこと、文書に基づいていない派遣依頼も数多くあることなどの理由から、実数としては下表よりも多い。

市町村等への技術支援 実績一覧（派遣依頼文書受理分）

番号	期間	依頼元	目的・理由	担当	
1	4月20日	八女市教育委員会	釘崎古墳群，立山山20号墳保存に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
2	7月8日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財保存活用計画策定委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
3	7月8日	春日市教育委員会	春日市文化財専門委員会水城跡整備部会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
4	7月9日	大野城市教育委員会	大野城市史跡対策委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
5	7月12日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
6	7月20日	八女市教育委員会	八女市岩戸山歴史文化交流館協議会出席	学芸調査室	松川博一
7	7月20日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財専門委員会出席	学芸調査室	松川博一
8	7月29日	古都大宰府保存協会	機関紙『都府楼』編集委員会出席	学芸調査室	酒井芳司
9	7月30日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
10	8月3日	糸島市教育委員会	国史跡新町支石墓群整備検討委員会出席	埋蔵文化財調査室	梶佐古幸謙
11	8月5日	久留米市文化財保存活用地域計画協議会	久留米市文化財保存活用地域計画協議会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
12	8月13日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
13	8月19日～	福津市教育委員会	新原・奴山古墳群発掘調査に係る指導	埋蔵文化財調査室	吉村靖徳
14	8月19日	福岡市	国史跡元寇防塁整備活用検討会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎

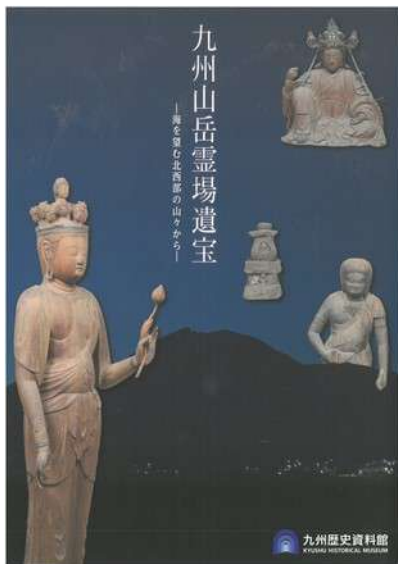
番号	期間	依頼元	目的・理由	担当	
15	8月30日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
16	8月31日	粕屋町教育委員会	粕屋町文化財保存活用計画策定委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
17	9月1日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
18	9月3日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
19	9月16日	うきは市教育委員会	史跡屋形古墳群整備実施設計策定に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
20	9月17日	古賀市教育委員会	船原古墳調査指導委員会出席	文化財企画推進室	加藤和歳
21	9月22日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財保存活用計画策定委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
22	10月5日	志免町教育委員会	志免町文化財保護審議会出席	文化財企画推進室	國生知子
23	10月11日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
24	10月13日	太宰府市史跡対策委員会	太宰府市史跡対策委員会出席	埋蔵文化財調査室	吉村靖徳
25	10月13日	貝島家住宅文化財調査委員会	貝島家住宅文化財調査委員会出席	学芸調査室	渡部邦昭
26	10月14日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
27	10月19日	甘木歴史資料館	秋季企画展に係る助言等	文化財企画推進室	國生知子
28	10月22日	行橋市教育委員会	史跡御所ヶ谷神籠石災害復旧に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
29	10月25日	諫早市教育委員会	木造男神像2躯ほか調査指導	学芸調査室	井形 進
30	10月29日	粕屋町教育委員会	粕屋町文化財保存活用計画策定委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
31	11月5日	中津市教育委員会	中津市歴史博物館協議会出席	学芸調査室	松川博一
32	11月9日	直方市教育委員会	直方市文化財等に関する有識者委員会に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
33	11月10日	北九州市	市有形文化財「木造聖観音立像」調査に係る現地指導	学芸調査室	井形 進

番号	期間	依頼元	目的・理由	担当	
34	11月22日	久山町教育委員会	史跡首羅山遺跡保存・活用整備指導委員会出席	学芸調査室	井形 進
35	11月23～ 25日	小値賀町教育委員会	「十一面観音座像」調査に係る現地指導	学芸調査室	井形 進
36	12月1日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
37	12月2日	うきは市教育委員会	史跡屋形古墳群整備実施設計策定に係る現地指導	文化財企画推進室	入佐友一郎
38	12月6日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
39	12月9日	松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡出土遺物保存処理に係る現地指導等	文化財企画推進室	小林 啓
40	12月10日	八女市教育委員会	八女市岩戸山歴史文化交流館協議会出席	学芸調査室	松川博一
41	12月10日	久留米市文化財収蔵資料審議会	久留米市文化財収蔵資料審議会出席	文化財企画推進室	國生知子
42	12月10日	直方市教育委員会	直方市文化財等に関する有識者委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
43	12月13日 ～	みやま市教育委員会	国史跡女山神籠石災害復旧事業に伴う発掘調査現地指導	埋蔵文化財調査室	吉村靖徳 森井啓次
44	12月19日	甘木歴史資料館	秋季企画展に係る助言等	文化財企画推進室	國生知子
45	12月21日	大野城心のふるさと館	秋季特別展に係る展示指導	学芸調査室	松川博一
46	12月21日	北九州市	「行西寺木造薬師如来坐像」調査に係る現地指導	学芸調査室	井形 進
47	12月23日	行橋市教育委員会	史跡御所ヶ谷神籠石整備指導委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
48	12月24日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財保存活用計画策定委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
49	1月14日	ベトナム・福岡歴史文化交流展実行委員会	ベトナム・福岡歴史文化交流展展示に係る技術指導	学芸調査室	遠藤啓介
50	1月20日	筑紫野市歴史博物館	原口古墳出土三角縁神獣鏡の収蔵に係る技術指導	文化財企画推進室	小林 啓
51	1月20日	糸島市教育委員会	国史跡新町支石墓群整備検討委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
52	1月22日	ベトナム・福岡歴史文化交流展実行委員会	ベトナム・福岡歴史文化交流展展示に係る技術指導	学芸調査室	遠藤啓介

番号	期間	依頼元	目的・理由	担当	
53	1月27日	福岡市	国史跡元寇防塁整備活用検討会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
54	1月28日	長崎県教育庁	長崎県文化財保護審議会出席	学芸調査室	井形 進
55	1月28日	行橋市教育委員会	史跡御所ヶ谷神籠石発掘調査に伴う現地指導	文化財企画推進室 埋蔵文化財調査室	入佐友一郎 進村真之
56	1月31日	柳川市教育委員会	出土陶磁器類の分類・整理に関する現地指導	学芸調査室	遠藤啓介
57	2月9日	行橋市教育委員会	史跡御所ヶ谷神籠石発掘調査に伴う現地指導	埋蔵文化財調査室	吉村靖徳
58	2月9日	春日市教育委員会	春日市文化財専門委員会水城跡整備部会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
59	2月17日	粕屋町教育委員会	粕屋町文化財保存活用計画策定委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
60	2月28日	糸島市教育委員会	糸島市文化財保護委員会出席	文化財企画推進室	國生知子
61	3月9日	宮若市教育委員会	宮若市文化財収蔵・展示・交流センターに係る展示指導	学芸調査室	松川博一
62	3月10日	直方市教育委員会	直方市文化財等に関する有識者委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
63	3月14日	古賀市教育委員会	船原古墳調査指導委員会出席	文化財企画推進室	加藤和歳
64	3月15日	大野城市教育委員会	大野城市史跡対策委員会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
65	3月17日	豊前市教育委員会	国史跡求菩提山整備事業に係る現地指導	学芸調査室	井形 進
66	3月22日	那珂川市教育委員会	那珂川市文化財専門委員会出席	学芸調査室	松川博一
67	3月23日	久留米市文化財保存活用地域計画協議会	久留米市文化財保存活用地域計画協議会出席	文化財企画推進室	入佐友一郎
68	3月23日	基山町教育委員会	基肄城跡保存整備委員会出席	埋蔵文化財調査室	進村真之
69	3月23～24日	堺市博物館	企画展に伴う大陸系石造物等に関する調査指導	学芸調査室	井形 進

(11) 刊行物一覧

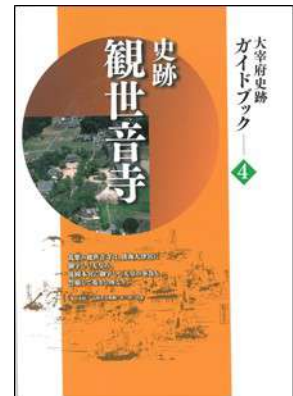
No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集47』	3月
2	『九歴だよりN0. 53』	4月
3	『九歴だよりNo. 54』	11月
4	『九州山岳霊場遺宝 一海を望む北西部の山々から一』	10月
5	『福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～』	8月
6	『九州歴史資料館解説シート80 邪馬台国への道（後編）』	10月
7	『九州歴史資料館解説シート81 木簡からみた古代の大宰府』	12月
8	『九州歴史資料館解説シート82 船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2021-2022』	3月
9	『大宰府史跡ガイドブック 4 史跡 観世音寺』	3月
10	『福岡県文化財調査報告書第279集 三沢遺跡確認調査報告書』	3月
11	『下唐原東屋敷遺跡 一福岡県築上郡上毛町所在遺跡の調査一』	3月



特別展図録
『九州山岳霊場遺跡』



企画展「福岡県政150年」
パンフレット



大宰府史跡
ガイドブック

(12) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

3年度は新型コロナウイルス予防のため本事業を中止した。

(13) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

令和3年9月13日（月）に木川会長ほか9名の委員が出席（うち8名はリモート）して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 2年度事業報告
2年度九州歴史資料館自己評価表（実施段階）
- 2 協議事項 3年度事業計画
3年度九州歴史資料館自己評価表（計画段階）

九州歴史資料館協議会委員名簿

令和3年6月1日現在

	氏 名	所 属
(会 長)	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
(副会長)	黒田 修三	前宇美町立図書館長
委 員	佐古 和枝	関西外国語大学教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	中野 等	九州大学院比較社会文化研究院教授
	樋田 京子	太宰府市教育委員会教育長
	工藤 正則	小郡市立三国中学校長
	秋永 晃生	小郡市教育委員会教育長
	植野 かおり	公益財団法人立花財団 立花家史料館長
	花田 睦子	那珂川市立安德小学校長
	山野 善郎	有限会社建築史塾Archist代表取締役
	高妻 洋成	奈良文化財研究所副所長
	川述 昭人	前八女市岩戸山歴史文化交流館長

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年 7月 1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年 9月 5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年 3月 8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年 3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年 4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年 5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年 2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開開始まる）
昭和49年 8月	求菩提資料館開館
昭和50年 9月 4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和56年 4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年 2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年 4月 1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年 5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月 1日	柳川古文書館開館
昭和63年 9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成 2年 9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～ 11月）
平成 5年 4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8年 4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成 9年 6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年 4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年 1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年 8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年 4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年 4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業開催（～ 12月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年 6月	新九州歴史資料館建設工事竣工

平成22年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成22年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成22年11月20日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府－その栄華と軌跡－」開催（～ 1 月）
平成22年12月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道－古代の役所と人々のくらし－」開催
平成23年 2 月	常設展公開開始
平成23年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成23年 7 月25日	登録博物館（第22号）
平成23年11月	特別展「発掘された日本列島2011」開催（～ 12 月）
平成24年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～ 2 月）
平成24年10月	特別展「長崎街道－世界とつながった道－」開催（～ 12 月）
平成25年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～ 3 月）
平成25年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成25年 9 月	開館40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り－九州の覇権のゆくえ－」開催（～ 11 月）
平成25年10月	開館40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成26年 1 月	企画展「五卿と志士－維新前夜の太宰府－」開催（～ 2 月）
平成26年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成26年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～ 9 月） 企画展「水城築堤1350 年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催（～ 9 月）
平成26年10月	特別展「福岡の神仏の世界－北部九州に華ひらいた信仰と造形－」開催（～ 11 月）
平成26年11月	入館者10万人達成記念式典
平成27年 9 月	企画展「貝原益軒－大宰府研究の先賢たち－」開催（～ 10 月）
平成27年10月	大野城築城1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の1350 年－大野城から祈りの山へ－」開催（～ 12 月）
平成27年10月	移転開館 5 周年記念イベント開催
平成28年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～11月）
平成28年11月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～ 1 月）
平成29年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～ 9 月）
平成29年10月	企画展「福岡県の城」開催（～12月） 企画展「大宰府を巡るサイエンス」開催（～12月）
平成30年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～ 4 月）
平成30年 4 月	特別展「大宰府への道」開催（～ 6 月）
平成30年 6 月	企画展「幕末の城－近世の沿岸警備と幕末期城郭－」開催（～ 8 月）
令和元年10月	特別展「久留米－その歴史と文化－」（～12月）
令和 2 年 1 月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図－さいふまいの江戸・明治－」（～ 2 月）
令和 2 年 2 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～ 5 月）
令和 2 年 4 月	吉田法稔、第十代館長に就任
令和 2 年10月	移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催（～11月）
令和 2 年11月 8 日	移転開館10周年記念イベント開催（感染症拡大防止のため式典は縮小実施）
令和 2 年12月	企画展「朝鮮通信使と福岡－福岡県朝鮮通信使総合調査成果展－」開催（～ 2 月）

令和3年4月	組織改編により文化財企画推進室を新設し、企画推進班を設置 保存管理班を学芸調査室から文化財企画推進室に移設 文化財調査室を埋蔵文化財調査室に名称変更
令和3年4月28日	城戸秀明、第十一代館長に就任
令和3年5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～6月）
令和3年8月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～9月）
令和3年10月	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」（～12月）

（２）施設概要

- 1) 本館棟 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階
展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、
特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
- 2) 敷地面積 43,438.62㎡
- 3) 延床面積 9,475.92㎡
- 4) 一般収蔵庫棟 鉄骨造
木器保存処理室・一般収蔵庫
- 5) 建設費 約36億円（本館・一般収蔵庫）

（３）予算（３年度）

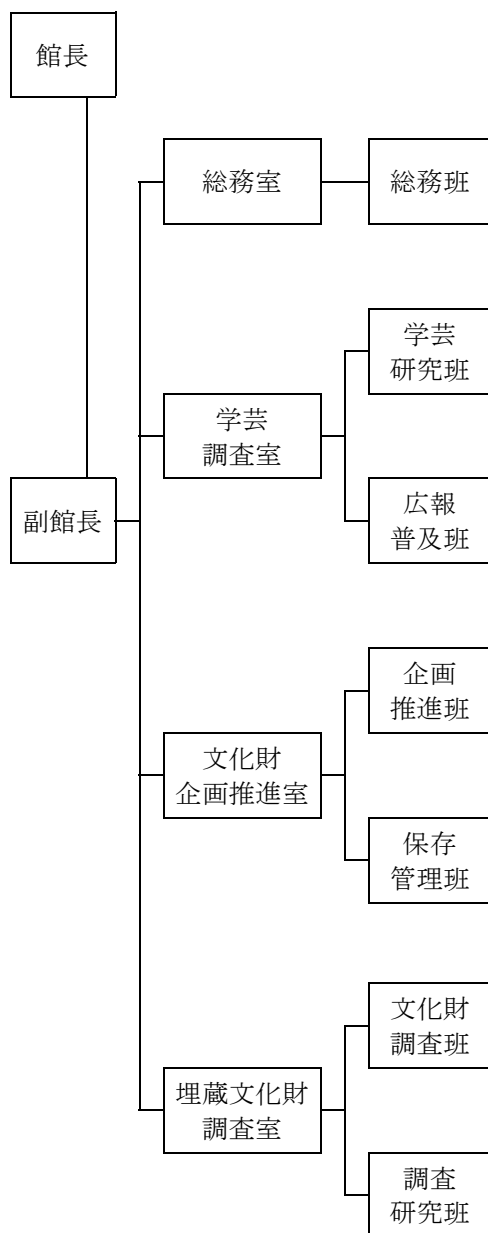
当館の事業費総額は292,606千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1 九州歴史資料館費	259,562千円
資料館運営費	123,749千円
歴史資料調査研究費	1,550千円
歴史資料等収集整備費	742千円
資料館展示費	1,590千円
特別展示事業費	9,579千円
県史史料管理公開事業費	9,187千円
九州歴史資料館整備費	108,584千円
福岡歴史文化発信・体感事業	4,581千円
2 文化財保護費	33,044千円
大宰府史跡発掘調査費	33,044千円

※受託・執行委任事業は除く

(4) 組織・職員 (令和3年4月28日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		城 戸 秀 明	(4/27まで 吉田 法稔)
副館長		安 永 千 里	
総務室	企画主幹		伊 藤 幸 子 総務室長
	総務班	企画主査	高山 美保子 総務班長
		主任主事	古 賀 知 香
		主任主事	小 原 大 輔
		主任主事	田 中 佑 弥
		主事	具志堅 靖知
学芸調査室	企画主幹		松 川 博 一 学芸調査室長 兼広報普及班長
	学芸研究班	参事補佐	井 形 進 学芸研究班長
		企画主査	酒 井 芳 司
		技術主査	遠 藤 啓 介
		主任技師	日 野 綾 子
	広報普及班	指導主事兼 事務主査	今 村 洋 次
		指導主事兼 事務主査	中 野 宏 人
		主任技師	渡 部 邦 昭
	企画主幹		秦 憲 二 文化財企画推進 室長
	企画推進班	参事補佐	入 佐 友 一 郎 企画推進班長
		企画主査	國 生 知 子
文化財企画推進室	保存管理班	教諭	田 中 奨 俊 研修員
		参事補佐	加 藤 和 歳 保存管理班長
	保存管理班	技術主査	小 林 啓
埋蔵文化財調査室	参事		吉 村 靖 徳 埋蔵文化財調査 室長
	文化財 調査班	参事補佐	森 井 啓 次 文化財調査班長
		参事補佐	小 川 泰 樹
		技術主査	坂 本 真 一
		主任技師	梶佐古 幸謙
	調査研究班	参事補佐	吉 田 東 明 調査研究班長
		企画主査	進 村 真 之
		主任技師	小 嶋 篤

②九州歴史資料館研究論集編集委員会

委員長	副館長	安 永 千 里
委 員	埋蔵文化財調査室長	吉 村 靖 徳
委 員	文化財企画推進室長	秦 憲 二
委 員	学芸調査室長	松 川 博 一
事務局長	調査研究班長	吉 田 東 明

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

昭和60年1月21日福岡県条例第4号)

最終改正 令和元年7月 福岡県条例第5号

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

- ること。
- 三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。
- 四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。
- 五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項
- 3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報が適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則 (令和元・7・16福岡県条例第5号)

(施行期日)

この条例は、令和元年10月1日から施行する。

(九州歴史資料館条例の一部改正に伴う経過措置)

第二十九条の規定による改正後の九州歴史資料館条例の規定は、施行日以後にされる利用の承認に係る使用料について適用し、施行日前にされた利用の承認に係る使用料については、なお従前の例による。

別表第1 (第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分		金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期

課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分		金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510円
	第4展示室	8,500円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260円
	第4展示室	12,750円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額 (1時間につき)
会議室	390円
研修室1	390円
研修室2	390円
研修室3	390円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2 (第6条関係)

区 分	金額 (1枚につき)
電子式複写(白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 令和3年3月 教育委員会規則第4号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日
- 12月28日から翌年1月4日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(開館時間)
- 第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。
- 2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(利用の申込)
- 第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。
(利用申込の取消又は変更)
- 第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。
(利用の承認)
- 第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。
(資料の複写)
- 第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。
 - 一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。
 - 二 資料館の管理上支障があると認められるとき。
 - 三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。
- 2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。
(利用制限)
- 第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
 - 一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者
 - 二 その他係員の指示に従わない者
(資料の館外貸出し)
- 第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。
- 2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。
- 3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。
- 4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。
- 5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。
(損害の賠償)
- 第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。
(寄贈又は寄託)
- 第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。
- 2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。
- 3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。
(寄贈資料の取扱い)
- 第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。
(寄託資料の取扱い)
- 第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。
- 2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。
- 3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。
- 4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。
(申請書及び添付書類)
- 第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。
- 2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
 - 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則 (平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則 (令和3・3・16教育委員会規則第4号)

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)

最終改正 平成23年3月 教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。

主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の収受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。
- 十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。
- 十三 施設設備の管理に関すること。
- 十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。
- 十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23・3・30教育委員会規則第2号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年3月 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24年3月28日教育委員会規則第1号抄)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 令和3年3月 県規則第26号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数料をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)」をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のため

- に引率する教職員が観覧をする場合
当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。
以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料

の全額

- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該（減免の申請）

第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。

2 前条各五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。

4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。

5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

附 則（平成29・9・29教育委員会規則第34号）

この規則は、平成29年10月1日から施行する。

附 則（令和3・3・30県規則第26号）

この規則は、公布の日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 令和3年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで	238日	21,417人	90人

イ 過去5年間の入館者推移

単位・人

年 度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生以下	
29年度	306日	24,254	3,390	19,871	761	3,622	79
30年度	302日	23,367	1,585	19,504	731	3,132	77
元年度	278日	31,500	1,489	28,313	588	2,599	113
2年度	266日	16,939	2,622	15,595	314	1,030	64
3年度	238日	21,417	2,044	17,581	429	3,407	90

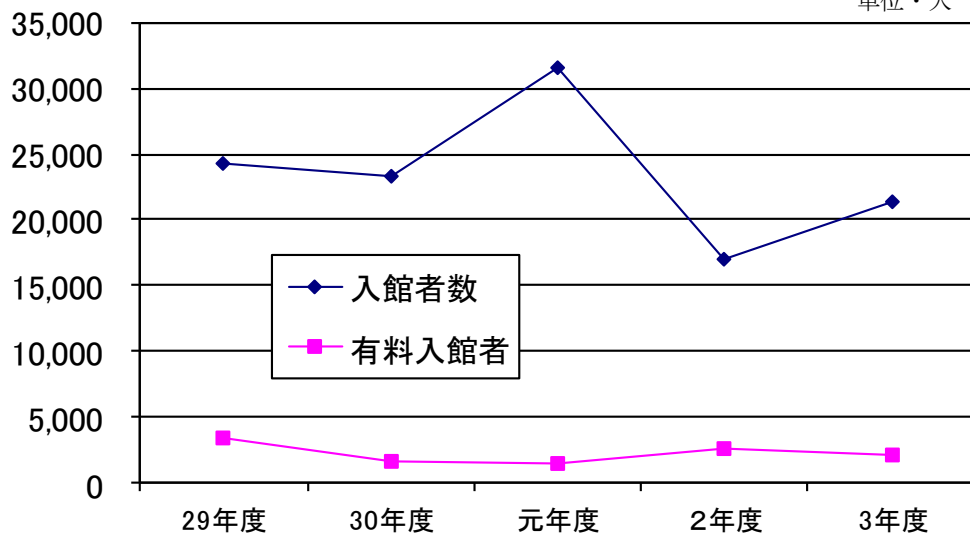
※つり天井工事実施のため、平成30年8月13日から令和元年10月11日まで、第1・3展示室（有料展示室）を閉室。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、

令和2年は2月28日～5月18日、令和3年は5月11日～6月20日、8月6日～9月13日 臨時閉館

ウ 過去5年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,372 点 歴史資料 129,366 点

< 図 書 >

購 入 5,016 冊 寄 贈 177,273 冊

4 日 誌 抄

年 月 日	内 容
令和2年 12月1日（火）	企画展「古代・中世の人びとの暮らし」（～4月18日（日））
令和3年 3月30日（火）	パネル展「保存科学成果展－古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2020～2021－」（～7月11日（日））
4月20日（火）	企画展「きゅうおにとタイムトラベル」（～10月10日（日））
4月25日（日）	キッズミュージアム短期プログラム「古代の生活体験2021・春」
5月11日（火）	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時閉館（～6月20日（日））
5月27日（木）	第1回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
7月13日（火）	パネル展「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島関連遺跡群」（～7月25日（日））
7月16日（金）	第2回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
8月1日（日）	キッズミュージアム2021通年型プログラム「親子で古代体験②」
8月3日（火）	企画展 福岡県置県150周年記念「福岡県政150年～第1部九州の中核をめざして～」（～9月26日（日））
8月6日（金）	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時閉館（～9月13日（月））
8月17日（火）	博物館実習（～8月29日（日））
9月13日（月）	九州歴史資料館協議会
9月14日（火）	山本作兵衛コレクション ユネスコ「世界の記憶」登録10周年記念交流キャラバン展「炭鉱（ヤマ）の記録、世界の記憶」（～9月26日（日））
9月18日（土）	教員のための博物館の日in九歴
10月3日（日）	なるほど!! こども歴史教室2021
10月5日（火）	パネル展「筑紫地区文化財写真展」（～10月24日（日））
10月9日（土）	特別展「九州山岳霊場遺宝－海を望む北西部の山々から－」（～12月5日（日））
10月12日（火）	企画展「歴史（とき）の宝石箱 ダイジェスト版」（～11月28日（日））
10月17日（日）	キッズミュージアム2021通年型プログラム「親子で古代体験③」
10月22日（金）	第3回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
10月26日（火）	パネル展「邪馬台国への道 後編」（名誉館長文化財写真展）（～3月27日（日））
10月27日（水）	大宰府史跡調査研究指導委員会（～10月28日（木））

年 月 日	内 容
11月6日（土）	特別展開催記念講演会「「翠竹黄華」としての見心来復像－背振に抱かれた中国五山の禅林文化－」
11月14日（日）	アクロス福岡ミュージアムコンサート
11月26日（金）	第4回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
11月28日（日）	こども古代体験まつり
11月30日（火）	企画展「史跡が紡ぐ福岡の歴史～新規国指定史跡～」 （～4月3日（日））
12月16日（木）	第5回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
12月18日（土）	特集展示「木簡からみた古代の大宰府」 （～2月13日（日）） 企画展 福岡県置県150周年記念「福岡県政150年～第1部九州の中核をめざして～」 （再） （～1月23日（日））
12月19日（日）	キッズミュージアム短期プログラム「古代の生活体験2021・冬」
令和4年 1月15日（土）	文化財めぐり「大宰府木簡の出土地を歩く」
1月18日（火）	文化財安全パトロール（女山神籠石・関戸遺跡）
1月21日（金）	第6回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
1月23日（日）	特集展示開催記念講演会「律令制国家の辺要政策と大宰府」
3月4日（金）	第7回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
3月11日（金）	有形文化財基礎研修
3月29日（火）	パネル展「保存科学成果展－船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2021～2022」 （～6月26日（日））

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため安全衛生講習会は中止、その他の研修や講座も中止を余儀なくされたものが複数あった。

福岡県行政資料	
分類番号 J H	所属コード 2120261
登録年度 4	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（令和 3 年度）

発 行 日 令和 4 年 8 月 1 日
編集・発行 九州歴史資料館
〒818-0068
福岡県小郡市三沢5208-3
T E L 0942-75-9575
F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

2021

CONTENTS

Preface

1	2021 Report of Kyushu Historical Museum	4
(1)	Survey and Research	4
(2)	Exhibition	21
(3)	Item Available	31
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	44
(5)	Volunteer	53
(6)	Dissemination/Utilization	57
(7)	Priority Measures	69
(8)	Public Relations Activities	69
(9)	Practice and Training Opportunities	74
(10)	Support for Municipalities	77
(11)	Published matter	81
(12)	Interchange	81
(13)	Conference and Meeting Facilities	82
2	Organization of Kyushu Historical Museum	83
(1)	History	83
(2)	Building and Grounds	85
(3)	Budget	85
(4)	Organization Chart and Staff	86
(5)	Rules and Regulations	87
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	93
(1)	Museum Visitors	93
(2)	Total Materials and Books	93
4	Outline of 2021 Activities	94